



CHAPTER 2

Cisco Unity Connection 8.5 以降および Microsoft Exchange でのユニファイドメッセージングの設定

次の項を参照してください。

- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降での Exchange を使用したユニファイドメッセージングについて」 (P.2-2)
- 「ユニファイドメッセージングのための Cisco Unity Connection 8.5 以降および Exchange の設定の作業リスト」 (P.2-11)
- 「ユニファイドメッセージングのための Cisco Unity Connection 8.5 以降の既存ユーザ設定の作業リスト」 (P.2-16)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降に単一受信トレイのライセンスが付与されていることを確認する (Cisco Unified CMBE のみ)」 (P.2-17)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降が通信する Exchange サーバを決定する」 (P.2-17)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降での Exchange 認証と SSL 設定の確認」 (P.2-19)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降での Active Directory でのユニファイドメッセージング サービスアカウントの作成と権限の付与」 (P.2-25)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 のユニファイドメッセージング サービスアカウントの EWS 制限の削除 (Exchange 2010 のみ)」 (P.2-31)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降の Exchange 2003 サーバでの WebDav サービスの有効化」 (P.2-33)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降から Exchange にアクセスするためのユニファイドメッセージング サービスの作成」 (P.2-33)
- 「Exchange および Active Directory サーバに対する CA パブリック証明書の Cisco Unity Connection 8.5 以降のサーバへのアップロード」 (P.2-36)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降に対するユニファイドメッセージング サービスのテスト」 (P.2-38)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降のユーザを Exchange メールボックスにリンクするユニファイドメッセージング アカウントの作成」 (P.2-39)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイドメッセージング アカウントのテスト」 (P.2-42)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降に対するユニファイドメッセージング アカウントにおける設定の概要の表示」 (P.2-42)

- 「Exchange および Cisco Unity Connection 8.5 以降を備えたユニファイド メッセージングを含むシステム構成のテスト」 (P.2-43)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降における Exchange 予定表へのアクセスのテスト」 (P.2-44)

Cisco Unity Connection 8.5 以降での Exchange を使用したユニファイド メッセージングについて

次の項を参照してください。

- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降でテキスト/スピーチを使用して Exchange メールにアクセスする」 (P.2-2)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降で Exchange の予定表および連絡先にアクセスする」 (P.2-2)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降での Connection および Exchange メールボックスの音声メッセージの同期 (単一受信トレイ)」 (P.2-3)

Cisco Unity Connection 8.5 以降でテキスト/スピーチを使用して Exchange メールにアクセスする

テキスト/スピーチ機能を使用して Exchange メールにアクセスできるように Cisco Unity Connection を設定すると、電話を使用して Cisco Unity Connection にサインインした際に、メールの内容を聞くこともできます。

Connection では、テキスト/スピーチを使用してメッセージを表示できるように、IMAP プロトコルを使用して Exchange の電子メールにアクセスします。デフォルトでは、メッセージへの IMAP アクセスを許可するように、Exchange が設定されていません。ライセンスを持つ Connection ユーザをアクセス可能にする、電子メールが保存された各 Exchange サーバへの IMAP アクセスを有効にする必要があります。

Cisco Unity Connection 8.0 で Exchange への IMAP アクセスを有効にする方法については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』の「Configuring Text-to-Speech Access to Exchange Emails in Cisco Unity Connection 8.0」の章の「[Enabling IMAP Access to Exchange in Cisco Unity Connection 8.0](http://www.cisco.com/en/US/partner/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsgx.html)」の項を参照してください。このガイドは、http://www.cisco.com/en/US/partner/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsgx.html から入手可能です。

Cisco Unity Connection 8.5 以降で Exchange の予定表および連絡先にアクセスする

Exchange の予定表および連絡先にアクセスできるように Cisco Unity Connection を設定すると、Connection ユーザは電話で次の操作を行えます。

- 予定されている会議のリストを再生する (Outlook 会議のみ)。
- 会議参加者リストを再生する。
- 会議開催者にメッセージを送信する。
- 会議参加者にメッセージを送信する。
- 会議への招待を承諾または拒否する (Outlook 会議のみ)。

- 会議をキャンセルする（会議開催者に限る）。

さらに、Connection では、ユーザが Connection Messaging Assistant Web ツールを使用して Exchange の連絡先をインポートできます。この連絡先情報は、その後、ユーザが Cisco Unity Connection Personal Call Transfer Rules Web ツールで作成するルールに使用したり、ユーザがボイス コマンドで コールを発信するときに使用できます。

Exchange の予定表にアクセスできるように Connection ユーザを設定した場合は、そのユーザを Cisco Unified MeetingPlace にもアクセスできるようにには設定できません。

Cisco Unity Connection 8.5 以降での Connection および Exchange メールボックスの音声メッセージの同期（単一受信トレイ）

この項では、Connection および Exchange メールボックスの音声メッセージの同期の仕組みについて説明します。次の項を参照してください。

- 「単一受信トレイが設定されている場合の音声メッセージの保存場所」(P.2-3)
- 「ViewMail for Outlook 使用時の単一受信トレイの動作」(P.2-3)
- 「ViewMail for Outlook を使用しない場合、または他のメール クライアント使用時の単一受信トレイの動作」(P.2-4)
- 「Exchange メールボックスのセキュア音声メッセージにアクセスする」(P.2-4)
- 「Cisco Unity Connection 8.6(2) 以降と Exchange メールボックスの間における音声メッセージの音声テキスト変換の同期」(P.2-5)
- 「Outlook フォルダ使用時の同期の動作」(P.2-8)
- 「削除したメッセージの場所」(P.2-9)
- 「Exchange と同期されない Connection メッセージのタイプ」(P.2-9)
- 「ステータス変更の複製」(P.2-9)
- 「単一受信トレイを無効にしてから再度有効にした場合の、Connection メールボックスと Exchange メールボックスの同期への影響」(P.2-10)
- 「開封確認、送信確認、および不達確認の同期方法」(P.2-10)

単一受信トレイが設定されている場合の音声メッセージの保存場所

Connection のすべての音声メッセージ（Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook から送信された音声メッセージを含む）は Connection に保存され、受信者の Exchange メールボックスにただちに複製されます。



(注) Connection に Exchange との単一受信トレイを設定し、Exchange サーバに BlackBerry Enterprise Server も統合してボイスメールを BlackBerry デバイスに送信する場合、ボイスメールが Exchange に到着してから BES が通知を受け取るまでに 10 ～ 15 分の遅延が生じます。

ViewMail for Outlook 使用時の単一受信トレイの動作

ユーザが Outlook を使用して新しい Connection 音声メッセージを送信する、または音声メッセージの返答/転送を行う場合、あるいはメッセージを Connection と同期させる場合：

- まだ追加していない場合は、Connection の管理で、単一受信トレイに対して設定されている Connection ユーザの SMTP プロキシ アドレスを追加します。ユーザの SMTP プロキシ アドレスは、単一受信トレイを有効にしたユニファイドメッセージング アカウントで指定した Exchange メールアドレスと一致する必要があります。
- ユーザ ワークステーションに ViewMail for Outlook をインストールします。ViewMail for Outlook がインストールされていない場合、音声メッセージは .wav ファイルを添付したメールとして Outlook によって送信され、Connection ではメールとして処理されます。
- 各ユーザ ワークステーション上で、メール アカウントを Connection サーバに関連付けます。

音声メッセージは Exchange に保存された他のメッセージと共に、ユーザの Outlook の [受信トレイ (Inbox)] フォルダに表示されます。音声メッセージは、ユーザの Connection メールボックスにも表示されます。

単一受信トレイを設定すると、Connection により、Outlook メールボックスに [音声送信トレイ (Voice Outbox)] フォルダが追加されます。Outlook から送信された Connection 音声メッセージは [送信済みアイテム (Sent Items)] フォルダに表示されません。

プライベート メッセージは転送できません。

ViewMail for Outlook を使用しない場合、または他のメール クライアント使用時の単一受信トレイの動作

別のメール クライアントを使用して Exchange の Connection 音声メッセージにアクセスする場合、または ViewMail for Outlook をインストールしない場合：

- メール クライアントは、Connection 音声メッセージを .wav ファイルが添付されたメールとして処理します。
- ユーザが Connection 音声メッセージの返答または転送を行うと、ユーザが .wav ファイルを添付した場合でも、返答または転送もまたメールとして処理されます。メッセージルーティングは、Connection ではなく Exchange によって処理されます。したがって、メッセージは受信者の Connection メールボックスに送信されません。
- ユーザがセキュア音声メッセージを聞くことはできません。
- プライベート音声メッセージを転送できない場合があります。(ユーザが ViewMail for Outlook を使用する場合は、ViewMail for Outlook によりプライベート メッセージを転送できなくなります)。



(注)

音声メッセージが Exchange 2003 のユーザに送信された場合、そのメッセージはただちに Connection と Exchange の間で同期されます。添付された .wav ファイルは Connection Web Inbox と Exchange 2003 の Outlook の両方で表示されます。Exchange 2003 の Outlook WebMail Access には、電子メールに添付ファイルを表す記号が表示されますが、電子メールを開いたときに、添付された .wav ファイルは表示されません。Exchange 2007 および 2010 の Outlook と OWA では、添付された .wav ファイルが電子メール内に表示されます。

Exchange メールボックスのセキュア音声メッセージにアクセスする

Exchange メールボックスの Connection セキュア音声メッセージを再生するには、Microsoft Outlook および Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook を使用する必要があります。ViewMail for Outlook がインストールされていない場合は、セキュア音声メッセージにアクセスしてもデコイメッセージの本文テキストのみが表示されます。このテキストには、セキュアメッセージの簡単な説明が含まれています。

Cisco Unity Connection 8.6(2) 以降と Exchange メールボックスの間における音声メッセージの音声テキスト変換の同期

Cisco Unity Connection 8.6(2) 以降では、システム管理者が単一受信トレイ音声テキスト変換機能を有効にします。音声メッセージの音声テキスト変換を有効にするためには、Connection ユーザが次のサービスを設定する必要があります。

- ユニファイド メッセージング サービス : ユニファイド メッセージング サービスの設定方法については、『*Unified Messaging Guide for Cisco Unity Connection 8.5 and Later and Microsoft Exchange for Unified Messaging*』の章の「Creating a Unified Messaging Service to Access Exchange from Cisco Unity Connection 8.5 and later」の項を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/unified_messaging/guide/85xcucumgx.html
- SpeechView 文字変換サービス : SpeechView 文字変換サービスの設定方法については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』の「Configuring Transcription (SpeechView) in Cisco Unity Connection 8.xe」の章の「Overview of SpeechView in Cisco Unity Connection 8.x」の項を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagpdf.pdf

単一受信トレイを設定した場合、次のサービスは Connection 8.6(2) でサポートされないことに注意してください。

- マルチ フォワード メッセージの同期
- Exchange 2003 ユーザにおける音声テキスト変換の同期

単一受信トレイでは、音声メッセージの音声テキスト変換は次のように Exchange と同期されます。

- 送信者が Web Inbox またはタッチトーン カンパセーション ユーザ インターフェイスから Connection ユーザに音声メッセージを送信し、Connection ユーザがさまざまな電子メール クライアントでボイスメールを表示した場合、音声メッセージの音声テキスト変換は表 2-1 に示すように同期されます。

表 2-1 送信者が Web Inbox またはタッチトーン カンパセーション ユーザー インターフェイスからボイスメールを送信した場合

シナリオ	Web Inbox	Outlook WebMail Access/Outlook、VMO なし	ViewMail for Outlook
音声メッセージの配信成功	音声テキスト変換のテキストが電子メールの閲覧ウィンドウに表示されます。	音声テキスト変換のテキストが電子メールの閲覧ウィンドウに表示されます。	音声テキスト変換のテキストが電子メールの閲覧ウィンドウに表示され、音声テキスト変換パネルにも表示されます。
エラーまたは応答タイムアウト	「エラーまたは応答タイムアウト (Failure or Response Timeout)」というテキストが電子メールの閲覧ウィンドウに表示されます。	「エラーまたは応答タイムアウト (Failure or Response Timeout)」というテキストが電子メールの閲覧ウィンドウに表示されます。	「エラーまたは応答タイムアウト (Failure or Response Timeout)」というテキストが電子メールの閲覧ウィンドウに表示され、音声テキスト変換パネルにも表示されます。
メッセージの文字を変換しています	「メッセージの文字を変換しています (Transcription in Progress)」というテキストが電子メールの閲覧ウィンドウに表示されます。	電子メールの閲覧ウィンドウに何も表示されません。	「メッセージの文字を変換しています (Transcription in Progress)」というテキストが音声テキスト変換パネルに表示されません。

- 送信者が ViewMail for Outlook から Connection ユーザに音声メッセージを送信し、Connection ユーザがさまざまな電子メールクライアントでボイスメールを表示した場合、音声メッセージの音声テキスト変換は表 2-2 に示すように同期されます。

表 2-2 送信者が ViewMail for Outlook からボイスメールを送信した場合

シナリオ	Web Inbox	Outlook WebMail Access/Outlook、VMO なし	ViewMail for Outlook
音声メッセージの配信成功	音声テキスト変換のテキストが電子メールの閲覧ウィンドウに表示されます。	音声テキスト変換のテキストが音声テキスト変換ファイル「Transcription.txt」に書き込まれます。	音声テキスト変換のテキストが音声テキスト変換ファイル「Transcription.txt」に書き込まれ、音声テキスト変換パネルにも表示されます。
エラーまたは応答タイムアウト	「エラーまたは応答タイムアウト (Failure or Response Timeout)」というテキストが電子メールの閲覧ウィンドウに表示されます。	「エラーまたは応答タイムアウト (Failure or Response Timeout)」というテキストが音声メッセージに添付される音声テキスト変換ファイル「Transcription.txt」に書き込まれます。	「エラーまたは応答タイムアウト (Failure or Response Timeout)」というテキストが音声メッセージに添付される音声テキスト変換ファイル「Transcription.txt」に書き込まれ、音声テキスト変換パネルにも表示されます。
メッセージの文字を変換しています	「メッセージの文字を変換しています (Transcription in Progress)」というテキストが電子メールの閲覧ウィンドウに表示されます。	添付ファイル「Transcription_pending.txt」が音声テキスト変換の進行状況を示します。	添付ファイル「Transcription_pending.txt」が音声テキスト変換の進行状況を示し、「メッセージの文字を変換しています (Transcription in Progress)」というテキストも音声テキスト変換パネルに表示されます。



(注) Connection が ViewMail for Outlook で作成された音声メッセージを受信した場合、メッセージの本文はテキストまたは空白となります。

- 送信者がサードパーティの電子メールクライアントから Connection にボイスメールを送信し、受信者がさまざまなクライアントでボイスメールを表示した場合、ボイスメールの音声テキスト変換は次のように同期されます。
 - 音声メッセージの音声テキスト変換は、上記のどちらのシナリオでも同期できます。

送信者が Connection ユーザに音声メッセージを送信すると、Cisco Unity Connection は受信した音声メッセージを音声テキスト変換のために Nauance サーバに送信します。ただし、音声メッセージの音声テキスト変換でエラーが発生した場合、Nauance サーバは Cisco Unity Connection にエラー コードを返します。Nauance サーバが返すエラー コードの詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Managing Nauance Server Code in Cisco Unity Connection 8.6(2) and later」の章を参照してください。

セキュア メッセージおよびプライベート メッセージの音声テキスト変換

- セキュア メッセージ：Connection サーバだけに保存されます。セキュア メッセージは、ユーザが サービス クラスに属している場合にのみ音声テキスト変換されます。
- プライベート メッセージ：プライベート メッセージの音声テキスト変換はサポートされていません。

Outlook フォルダ使用時の同期の動作

Connection は、ユーザの次の Outlook フォルダと Connection の受信トレイ フォルダの音声メッセージを同期させます。したがって、Connection 受信トレイ フォルダのメッセージは表示されたままになります。

- Outlook の [受信トレイ (Inbox)] フォルダ内のサブフォルダ
- Outlook の [削除済みアイテム (Deleted Items)] フォルダ内のサブフォルダ
- Outlook の [迷惑メール (Junk Email)] フォルダ

Outlook の [削除済みアイテム (Deleted Items)] フォルダのメッセージは、Connection の削除済みアイテム フォルダに表示されます。

ユーザが音声メッセージ（セキュア音声メッセージを除く）を [受信トレイ (Inbox)] フォルダ以外にある Outlook フォルダに移動した場合、そのメッセージは Connection の削除済みアイテム フォルダに移動します。コピーは Outlook にまだ存在しているため、この状態でも ViewMail for Outlook を使用してメッセージを再生できます。ユーザが、Outlook の [受信トレイ (Inbox)] フォルダまたは Connection の受信トレイフォルダと同期されている Outlook フォルダにメッセージを移動した場合に、さらに次の項目に該当する場合：

- メッセージが Connection の削除済みアイテム フォルダに入ったままである場合は、メッセージがそのユーザの Connection 受信トレイに再度同期されます。
- メッセージが Connection の削除済みアイテム フォルダにすでに入っていない場合は、メッセージを Outlook で再生できますが、Connection には再同期されません。

セキュア音声メッセージでは動作が異なります。Connection がセキュア音声メッセージを Exchange に複製する際には、セキュア メッセージについて簡単に説明するデコイ メッセージのみが複製されません。Connection サーバ上には、音声メッセージのコピーだけが残ります。ユーザが ViewMail for Outlook を使用してセキュア メッセージを再生すると、ViewMail は Connection サーバからメッセージを取得し、メッセージを Exchange またはユーザのコンピュータ上に保存せずに再生します。

ユーザが、Connection 受信トレイフォルダと同期されていない Outlook フォルダにセキュア メッセージを移動した場合は、メッセージのコピーだけが Connection の削除済みアイテム フォルダに移動し、Outlook でのメッセージの再生は行えなくなります。ユーザが、Outlook の [受信トレイ (Inbox)] フォルダまたは Connection の受信トレイフォルダと同期されている Outlook フォルダにメッセージを戻した場合で、さらに次の項目に該当する場合：

- メッセージが Connection の削除済みアイテム フォルダに入ったままである場合は、メッセージがそのユーザの Connection 受信トレイに再度同期され、メッセージが Outlook で再び再生可能になります。
- メッセージが Connection の削除済みアイテム フォルダにすでに入っていない場合、メッセージは Connection には再同期されず、Outlook でのメッセージの再生は行えなくなります。

削除したメッセージの場所

デフォルトでは、Connection のメッセージを削除すると、そのメッセージは Connection の削除済みアイテム フォルダに送信され、Outlook の [削除済みアイテム (Deleted Items)] フォルダとの同期が行われます。Connection の削除済みアイテム フォルダからメッセージを削除すると (ユーザが手動で削除するか、またはメッセージ エージングによる自動削除を設定できます)、そのメッセージは Outlook の [削除済みアイテム (Deleted Items)] フォルダからも削除されます。

単一受信トレイ機能を既存のシステムに追加する場合に、削除済みアイテム フォルダに保存せずにメッセージを完全に削除するように Connection を設定した場合は、Web Inbox または Connection 電話機インターフェイスを使用してユーザが削除したメッセージは完全に削除されます。ただし、Outlook を使用してユーザが削除したメッセージは Outlook の [削除済みアイテム (Deleted Items)] フォルダに移動するだけで、完全には削除されません。Connection が Exchange と同期されている場合、メッセージは Connection の削除済みアイテム フォルダに移動し、完全には削除されません。次のいずれか、または両方を行うことを推奨します。

- Connection の削除済みアイテム フォルダのメッセージを完全に削除するように、メッセージ エージングを設定します。
- メールボックスが指定したサイズに達した場合にメッセージの削除を促す Connection のプロンプトが表示されるように、メッセージ割り当てを設定します。

ユーザがいずれかの Outlook フォルダ ([削除済みアイテム (Deleted Items)] フォルダを含む) から音声メッセージを削除すると、そのメッセージは Connection の削除済みアイテム フォルダに移動します。Outlook での操作により、Connection のメッセージが完全に削除されることはありません。

Exchange と同期されない Connection メッセージのタイプ

次のタイプのメッセージは同期されません。

- 送信済みメッセージ
- 下書きメッセージ
- 後で配信するように設定した未配信メッセージ
- ブロードキャスト メッセージ
- 受け入れていないディスパッチ メッセージ。受信者がディスパッチ メッセージを受け入れると、ディスパッチ メッセージは通常のメッセージになり、メッセージを受け入れたユーザの Exchange と同期され、他のすべての受信者ではメッセージが削除されます。ユーザには他の未読メッセージがない場合であっても、配布リストのいずれかのユーザがディスパッチ メッセージを受け入れるまで、配布リストの全ユーザのメッセージ待機インジケータはオンのままになります。

ステータス変更の複製

ステータス変更 (たとえば、未読から既読など)、件名行の変更、および優先度の変更は、Connection から Exchange (および、その逆) に適切に複製されます。

単一受信トレイを無効にしてから再度有効にした場合の、Connection メールボックスと Exchange メールボックスの同期への影響

ユニファイド メッセージングを設定する場合は、特に、どのユニファイド メッセージング機能を有効にするかを定義するユニファイド メッセージング サービスを 1 つ以上作成します。また、ユーザをユニファイド メッセージング サービスに関連付けるため、各ユーザに対して 1 つ以上のユニファイド メッセージング アカウントも作成します。単一受信トレイは、3 つの方法で削除できます。

- 単一受信トレイを有効にしたユニファイド メッセージング サービスを完全に無効にします。これにより、サービスに関連付けられたすべてのユーザにおいて有効になっているユニファイド メッセージング機能（単一受信トレイを含む）がすべて無効になります。
- ユニファイド メッセージング サービスにおける単一受信トレイ機能のみを無効にします。これにより、そのサービスに関連付けられたすべてのユーザにおける単一受信トレイ機能のみが無効になります。
- ユニファイド メッセージング アカウントにおける単一受信トレイを無効にします。これにより、関連付けられたユーザの単一受信トレイだけが無効になります。

これらのいずれかの方法を使用して単一受信トレイを無効にしてから再度有効にした場合は、Connection により、影響のあるユーザの Connection メールボックスと Exchange メールボックスが再同期されます。次の点に注意してください。

- 単一受信トレイが無効になっている間に、ユーザが Exchange のメッセージを削除しても、Connection の対応するメッセージを削除しなかった場合は、単一受信トレイを再度有効にすると、そのメッセージが Exchange メールボックスに再同期されます。
- 単一受信トレイを無効にする前に、メッセージを Exchange から完全削除（[削除済みアイテム (Deleted Items)] フォルダから削除）した場合は、単一受信トレイを再度有効にした場合に Connection の削除済みアイテム フォルダに残っている対応するメッセージが、Exchange の [削除済みアイテム (Deleted Items)] フォルダに再同期されます。
- 単一受信トレイが無効になっている間に、ユーザが Connection のメッセージを削除しても、Exchange の対応するメッセージを削除しなかった場合は、単一受信トレイを再度有効にすると、そのメッセージが Exchange に残ったままになります。ユーザは Exchange から手動でメッセージを削除する必要があります。
- 単一受信トレイが無効になっている間に、ユーザが Exchange のメッセージのステータスを変更した場合は（たとえば、未読から既読など）、単一受信トレイを再度有効にすると、Exchange メッセージのステータスが、対応する Connection メッセージの現在のステータスに変更されます。
- 単一受信トレイを再度有効にすると、サービスに関連付けられたユーザの数およびユーザの Connection メールボックスおよび Exchange メールボックスのサイズに応じて、既存のメッセージの再同期が、新しいメッセージの同期パフォーマンスに影響する場合があります。

開封確認、送信確認、および不達確認の同期方法

Connection では、音声メッセージを送信した Connection ユーザに開封確認、送信確認、および不達確認メッセージを配信できます。音声メッセージの送信者において単一受信トレイが設定されている場合は、該当するレシートが送信者の Connection メールボックスに送信されます。次に、レシートは送信者の Exchange メールボックスに同期されます。

次の点に注意してください。

- **開封確認**：音声メッセージを送信するときに、送信者は開封確認を要求できます。開封確認要求に対して Connection が応答しないようにする場合は、Connection の管理で、[開封確認要求へ応答する (Respond to Requests for Read Receipts)] チェックボックスをオフにします。これは、[

ユーザ (Users)] > [ユーザ (Users)] > [編集 (Edit)] > [メールボックス (Mailbox)] ページ
 および [テンプレート (Templates)] > [ユーザ テンプレート (User Templates)] > [編集 (Edit)]
] > [メールボックス (Mailbox)] ページに表示されます。

- **送信確認** : ViewMail for Outlook から音声メッセージを送信する場合にのみ、送信者は送信確認を要求できます。送信確認要求に対する応答を Connection で無効にすることはできません。
- **Non-Delivery Receipt (NDR; 不達確認)** : 音声メッセージを配信できない場合、送信者は NDR を受信します。メッセージを配信できない場合に Connection から NDR が送信されないようにする場合は、Connection の管理で、[メッセージの配信失敗時に不達確認を送信する (Send Non-Delivery Receipts for Message Failed Delivery)] チェックボックスをオフにします。これは、[ユーザ (Users)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページ および [テンプレート (Templates)] > [ユーザ テンプレート (User Templates)] > [ユーザ テンプレートの基本設定の編集 (Edit User Template Basics)] ページに表示されます。

NDR について、次の点に注意してください。

- 送信者が TUI を使用して Connection にアクセスした場合、NDR には元の音声メッセージが含まれます。これにより、送信者は後で異なる受信者にメッセージを再送信できます。
- 送信者が Web Inbox を使用して Connection にアクセスした場合、NDR には元の音声メッセージが含まれますが、送信者はこのメッセージを再送信できません。
- 送信者が ViewMail for Outlook を使用して Exchange と同期されている Connection 音声メッセージにアクセスした場合、NDR は、元の音声メッセージではなくエラー コードのみを含むレシートになります。したがって、送信者は音声メッセージを再送信できません。
- 送信者が外部の発信者である場合、NDR は、[配信できないメッセージ (Undeliverable Messages)] 同報リストの Connection ユーザに送信されます。[配信できないメッセージ (Undeliverable Messages)] 同報リストに、未配信メッセージを定期的にモニタし、再ルーティングするユーザが 1 人以上含まれていることを確認してください。

ユニファイド メッセージングのための Cisco Unity Connection 8.5 以降および Exchange の設定の作業リスト

1 つ以上のユニファイド メッセージング機能を設定するには、記載された順序で次の作業を完了します。

1. 『System Requirements for Cisco Unity Connection Release 8.x』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/requirements/8xcucsysreqs.html) の「Requirements for Using Unified Messaging Features (Connection 8.5 and Later Only)」の項を参照します。
2. Cisco Unified Communications Manager Business Edition のみ: Connection に単一受信トレイのライセンスが付与されていることを確認します。「Cisco Unity Connection 8.5 以降に単一受信トレイのライセンスが付与されていることを確認する (Cisco Unified CMBE のみ)」(P.2-17) を参照してください。
3. Connection が LDAP ディレクトリに統合されている場合: 現在の LDAP ディレクトリを設定を確認して、Cisco Unified Communications Manager の [メール ID (Mail ID)] フィールドが LDAP のメール フィールドと同期されていることを確認します。統合プロセス中には、これにより、LDAP のメール フィールドが Connection の [社内電子メール アドレス (Corporate Email Address)] フィールドに表示されます。

ユニファイドメッセージングでは、各 Connection ユーザの Exchange メールアドレスを入力する必要があります。[ユニファイドメッセージングアカウント (Unified Messaging Account)] ページでは、次のいずれかの値を使用するように各ユーザを設定できます。

- [ユーザの基本設定 (User Basics)] ページで指定した社内電子メールアドレス
- [ユニファイドメッセージングアカウント (Unified Messaging Account)] ページで指定したメールアドレス

[社内電子メールアドレス (Corporate Email Address)] フィールドに LDAP のメールフィールドを自動的に読み込むのは、Connection の管理または Bulk Administration Tool を使用して [ユニファイドメッセージングアカウント (Unified Messaging Account)] ページのメールフィールドを読み込むよりも簡単です。

Cisco Unified CM の [メール ID (Mail ID)] がメールフィールドではなく sAMAccountName と同期されている場合は、LDAP ディレクトリの設定変更を検討します。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (Release 8.x)

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html から入手可能) の「Integrating Cisco Unity Connection 8.x with an LDAP Directory」の章にある「Changing LDAP Directory Configurations in Cisco Unity Connection 8.x」の項を参照してください。

4. 単一受信トレイを使用している場合に、ユーザが *ViewMail for Outlook* を使用して音声メッセージを送信したり、音声メッセージの転送/返答を行う場合：ユーザワークステーションに Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook をインストールします。ViewMail for Outlook のインストールの詳細については、『*Release Notes for Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook Release 8.5(x)*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html) を参照してください。
5. Connection が特定の Exchange 2010 または Exchange 2007 のクライアントアクセスサーバまたは Exchange 2003 サーバを使用して通信するか、または、Connection が必要に応じて異なる Exchange サーバを検索して通信を行うかを決定します。「Cisco Unity Connection 8.5 以降が通信する Exchange サーバを決定する」(P.2-17) を参照してください。

Microsoft 社の Web サイトで入手可能な『*White Paper: Exchange 2007 Autodiscover Service*』の説明のように、Exchange 2010 または Exchange 2007 (あるいは両方) を使用している場合、Connection は Exchange サーバを検索します。



- (注) Connection は、該当するユニファイドメッセージングサービスの設定に基づいて、HTTP プロトコルまたは HTTPS プロトコルのどちらを使用するかということと、証明書を検証するかを判断します。

6. 作業 5. で、Connection が必要に応じて異なる Exchange サーバを検索して通信を行うことを決定した場合に、DNS を使用するように Connection がまだ設定されていない場合は、次の CLI コマンドを使用して DNS を設定します。

- set network dns
- set network dns options

Active Directory 環境がそのレコードを発行している環境と同じ DNS 環境を使用するように、Connection を設定することを推奨します。

CLI コマンドの詳細については、該当する『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

7. Connection がアクセスするすべての Exchange サーバが、望ましい認証モード（基本、ダイジェスト、または NTLM）および Web ベース プロトコル（HTTPS または HTTP）を使用するように設定されていることを確認します。「Cisco Unity Connection 8.5 以降での Exchange 認証と SSL 設定の確認」(P.2-19) を参照してください。



(注) SSL を設定して、Connection と Exchange 間の通信を暗号化する場合、Web ベース プロトコルとして HTTPS を使用するよう Exchange を設定してください。

8. Connection のユニファイド メッセージング サービスにおいて使用する Active Directory アカウントを作成し、該当する権限をアカウントに付与します。「Cisco Unity Connection 8.5 以降での Active Directory でのユニファイド メッセージング サービス アカウントの作成と権限の付与」(P.2-25) を参照してください。
9. Exchange 2010 を使用している場合：ユニファイド メッセージング サービス アカウントに対する EWS の制限を解除します。「Cisco Unity Connection 8.5 のユニファイド メッセージング サービス アカウントの EWS 制限の削除 (Exchange 2010 のみ)」(P.2-31) を参照してください。
10. Exchange 2003 を使用している場合：WebDav サービスを有効にします。「Cisco Unity Connection 8.5 以降の Exchange 2003 サーバでの WebDav サービスの有効化」(P.2-33) を参照してください。
11. 単一受信トレイを使用しており、ユーザが SMTP プロキシアドレスを追加していない場合：Connection ユーザ アカウントにプロキシアドレスを追加します。詳細については、『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』(Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_mac/guide/8xcucmacx.html から入手可能) の「Setting Up Features and Functionality That Are Controlled by User Account Settings in Cisco Unity Connection 8.x」の章にある「SMTP Proxy Addresses in Cisco Unity Connection 8.x」の項を参照してください。
12. 必要に応じて、サービス クラスの設定を更新します。
- 1 つ以上のサービス クラスで単一受信トレイを有効にします。詳細については、『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』(Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_mac/guide/8xcucmacx.html から入手可能) の「Setting Up Features and Functionality That Are Controlled by Class of Service in Cisco Unity Connection 8.x」の章にある「Single Inbox in Cisco Unity Connection 8.5 and Later」の項を参照してください。

単一受信トレイの使用を設定したすべてのユーザは、単一受信トレイを有効にしたサービス クラスに含まれている必要があることに注意してください。

Cisco Unified Communications Manager Business Edition のみ：ユーザが単一受信トレイを使用するように設定されていない場合であっても、Connection では、単一受信トレイが有効になっているサービス クラスのすべてのユーザが単一受信トレイ ユーザとしてカウントされます。たとえば、Connection サーバに 200 の単一受信トレイ ユーザのライセンスが付与されている場合に、単一受信トレイが有効な 3 つのサービス クラスがある場合、これらの 3 つのサービス クラスに割り当てられたユーザの合計数は 200 ユーザを超えることはできません。これは、50 ユーザのみにおいて単一受信トレイの使用を設定した場合も同様です。

- 1 つ以上のサービス クラスにおいて、Exchange 音声メッセージへのテキスト/スピーチ アクセスを有効にします。該当するサービス クラス ページの [詳細機能へのアクセスを許可する (Allow Access to Advanced Features)] チェックボックスをオンにし、[テキスト/スピーチ (TTS) を使用した Exchange メールへのアクセスを許可する (Allow Access to Exchange Email by Using Text to Speech (TTS))] チェックボックスをオンにします。

13. 単一受信トレイ ユーザのサービス クラスにおいて、[削除済みアイテム フォルダに保存せずにメッセージを削除する (Delete Messages Without Saving to Deleted Items Folder)] が有効になっている場合：メッセージ エージングまたはメッセージ割り当て（あるいは両方）を設定することを推奨します。そうしないと、Outlook から削除されたメッセージが、Connection から永久に削除されない場合があります。詳細については、「Cisco Unity Connection 8.5 以降での Connection および Exchange メールボックスの音声メッセージの同期（単一受信トレイ）」(P.2-3) を参照してください。

Connection のメッセージ エージングおよびメッセージ割り当ての設定の詳細については、『System Administration Guide for Cisco Unity Connection』(Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Controlling the Size of Mailboxes in Cisco Unity Connection 8.x」の章を参照してください。

14. 1 つ以上の Connection ユニファイドメッセージング サービスを設定します。「Cisco Unity Connection 8.5 以降から Exchange にアクセスするためのユニファイドメッセージング サービスの作成」(P.2-33) を参照してください。
15. 選択した設定：次のいずれか、または両方の設定では、Connection と Exchanged 間および Connection と Active Directory 間の通信を暗号化するため、SSL 証明書を Connection サーバ上にアップロードします。
- 作業 7. で Exchange が HTTPS を使用するよう設定し、作業 14. で Exchange サーバの証明書を検証するようにユニファイドメッセージング サービスを設定した場合。
 - 作業 14. で、Connection が異なる Exchange サーバと通信し、LDAPS を使用してドメイン コントローラと通信し、ドメイン コントローラの証明書を検証するように設定した場合。



注意

異なる Exchange サーバを検索して通信できるように Connection を設定した場合、Connection は基本認証を使用して Active Directory サーバと通信します。デフォルトでは、ユニファイドメッセージング サービス アカウントのユーザ名とパスワード、および Connection と Active Directory サーバ間の他のすべての通信はクリア テキストで送信されます。このデータを暗号化する場合は、作業 14. でセキュア LDAP (LDAPS) プロトコルを使用して Active Directory ドメインと通信するように、ユニファイドメッセージング サービスを設定する必要があります。

詳細については、「Exchange および Active Directory サーバに対する CA パブリック証明書の Cisco Unity Connection 8.5 以降のサーバへのアップロード」(P.2-36) を参照してください。

16. ユニファイドメッセージング サービスをテストします。「Cisco Unity Connection 8.5 以降に対するユニファイドメッセージング サービスのテスト」(P.2-38) を参照してください。
17. Connection ユーザ アカウントを更新します。
- 単一受信トレイおよびテキスト/スピーチのみ：ユーザ設定を更新して、単一受信トレイまたはテキスト/スピーチを有効にした各ユーザを、単一受信トレイまたはテキスト/スピーチを有効にしたサービス クラスに割り当てます。『User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection』(Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_mac/guide/8xcucmax.html) の「Modifying or Deleting Individual User Accounts in Cisco Unity Connection 8.x」または「Managing Cisco Unity Connection 8.x User Accounts in Bulk」の章を参照してください。
 - Connection ユーザのユニファイドメッセージング アカウントを作成します。「Cisco Unity Connection 8.5 以降のユーザを Exchange メールボックスにリンクするユニファイドメッセージング アカウントの作成」(P.2-39) を参照してください。

- 作業 13. で、メッセージ エージングまたはメッセージ 割り当て（あるいは両方）を設定した場合：ユーザ アカウントを適切に設定します。

個々のユーザに対するメッセージ エージング設定を変更する方法については、『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』 (Release 8.x)

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_mac/guide/8xcucmacx.html) の「Setting Up Features and Functionality That Are Controlled by User Account Settings in Cisco Unity Connection 8.x」の章の「Message Aging in Cisco Unity Connection 8.x」の項を参照してください。

個々のユーザに対するメッセージ 割り当て設定を変更する方法については、『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』 (Release 8.x)

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_mac/guide/8xcucmacx.html) の「Setting Up Features and Functionality That Are Controlled by User Account Settings in Cisco Unity Connection 8.x」の章の「Mailbox-Size Quotas in Cisco Unity Connection 8.x」の項を参照してください。

18. Connection ユーザのユニファイド メッセージング アカウントをテストします。「Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイド メッセージング アカウントのテスト」(P.2-42) を参照してください。
19. ユニファイド メッセージングの設定をテストします。次の項を参照してください。
 - 「Cisco Unity Connection 8.5 以降に対するユニファイド メッセージング アカウントにおける設定の概要の表示」(P.2-42)
 - 「Exchange および Cisco Unity Connection 8.5 以降を備えたユニファイド メッセージングを含むシステム構成のテスト」(P.2-43)
 - 「Cisco Unity Connection 8.5 以降における Exchange 予定表へのアクセスのテスト」(P.2-44)
20. Connection 音声メッセージが Outlook の [迷惑メール (Junk Items)] フォルダに自動的に移動される場合：Outlook の設定を変更して、音声メッセージの送信者または送信者のドメインを安全な送信者のリストに追加します。詳細については、Outlook のヘルプを参照してください。
21. Connection 予定表の使用方法をユーザに知らせるには、次の参照先を示してください。
 - 会議のリスト、参加、およびスケジュールについては、『*User Guide for the Cisco Unity Connection Phone Interface*』 (Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user/guide/phone/b_8xcucugphone.html) の「Cisco Unity Connection Phone Menus and Voice Commands」の章を参照してください。
 - Exchange の連絡先のインポートについては、『*User Guide for the Cisco Unity Connection Messaging Assistant Web Tool*』 (Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user/guide/assistant/b_8xcucugasst.html) の「Managing Your Personal Contacts」の章を参照してください。
 - パーソナル着信転送ルールの使用方法については、『*User Guide for the Cisco Unity Connection Personal Call Transfer Rules Web Tool*』 (Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user/guide/pctr/b_8xcucugpctr.html) を参照してください。

ユニファイド メッセージングのための Cisco Unity Connection 8.5 以降の既存ユーザ設定の作業リスト

「ユニファイド メッセージングのための Cisco Unity Connection 8.5 以降および Exchange の設定の作業リスト」(P.2-11) に従ってユニファイド メッセージングを設定した後に、既存のユーザのユニファイド メッセージング機能を追加する場合は、次の作業を行います。

1. Cisco Unified CMBE の単一受信トレイまたは TTS のみ：追加ユーザの十分なライセンスがあることを確認します。「Cisco Unity Connection 8.5 以降に単一受信トレイのライセンスが付与されていることを確認する (Cisco Unified CMBE のみ)」(P.2-17) を参照してください。
2. 単一受信トレイを使用している場合に、ユーザが ViewMail for Outlook を使用して音声メッセージを送信したり、音声メッセージの転送/返答を行う場合：Connection ユーザ アカウントにプロキシ アドレスを追加します。詳細については、『User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection』(Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_mac/guide/8xcucmacx.html) の「Setting Up Features and Functionality That Are Controlled by User Account Settings in Cisco Unity Connection 8.x」の章の「SMTP Proxy Addresses in Cisco Unity Connection 8.x」の項を参照してください。
3. Connection ユーザ アカウントを更新します。
 - 単一受信トレイおよびテキスト/スピーチのみ：ユーザ設定を更新して、単一受信トレイまたはテキスト/スピーチを有効にした各ユーザを、単一受信トレイまたはテキスト/スピーチを有効にしたサービス クラスに割り当てます。『User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection』(Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_mac/guide/8xcucmacx.html) の「Modifying or Deleting Individual User Accounts in Cisco Unity Connection 8.x」または「Managing Cisco Unity Connection 8.x User Accounts in Bulk」の章を参照してください。
 - Connection ユーザのユニファイド メッセージング アカウントを作成します。「Cisco Unity Connection 8.5 以降のユーザを Exchange メールボックスにリンクするユニファイド メッセージング アカウントの作成」(P.2-39) を参照してください。
 - 作業 13. で、メッセージ エージングまたはメッセージ割り当て (あるいは両方) を設定した場合：ユーザ アカウントを適切に設定します。

個々のユーザに対するメッセージ エージング設定を変更する方法については、『User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection』(Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_mac/guide/8xcucmacx.html) の「Setting Up Features and Functionality That Are Controlled by User Account Settings in Cisco Unity Connection 8.x」の章の「Message Aging in Cisco Unity Connection 8.x」の項を参照してください。

個々のユーザに対するメッセージ割り当て設定を変更する方法については、『User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection』(Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_mac/guide/8xcucmacx.html) の「Setting Up Features and Functionality That Are Controlled by User Account Settings in Cisco Unity Connection 8.x」の章の「Mailbox-Size Quotas in Cisco Unity Connection 8.x」の項を参照してください。
4. Connection ユーザのユニファイド メッセージング アカウントをテストします。「Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイド メッセージング アカウントのテスト」(P.2-42) を参照してください。

5. *Connection* 音声メッセージが Outlook の [迷惑メール (Junk Items)] フォルダに自動的に移動される場合: Outlook の設定を変更して、音声メッセージの送信者または送信者のドメインを安全な送信者のリストに追加します。詳細については、Outlook のヘルプを参照してください。

Cisco Unity Connection 8.5 以降に単一受信トレイのライセンスが付与されていることを確認する (Cisco Unified CMBE のみ)

Cisco Unified Communications Manager Business Edition において Connection 8.5 の単一受信トレイ機能を使用する場合は、Connection に単一受信トレイのライセンスが付与されており、単一受信トレイを設定するユーザ数に十分なライセンスを保有している必要があります。

Cisco Unity Connection 8.5 に単一受信トレイのライセンスが付与されていることを確認するには (Cisco Unified CMBE のみ)

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[ライセンス (Licenses)] を選択します。
 - ステップ 2** [ライセンス シート (Licensed Seats)] 列で、IMAP または音声メッセージへの単一受信トレイアクセスのライセンスが設定されたユーザを探します。
 - ステップ 3** [値 (Value)] 列で、単一受信トレイを設定するユーザ数に十分なライセンスがあることを確認します。さらに追加のライセンスが必要な場合は、追加ライセンスの入手とインストールについて、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (Release 8.x) (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。
-

Cisco Unity Connection 8.5 以降が通信する Exchange サーバを決定する

Connection と Exchange 間の通信を定義するユニファイドメッセージングサービスを追加した場合は、Connection が特定の Exchange サーバと直接通信を行うか、または Connection が Exchange サーバを検索するかを選択できます。この選択により、Connection がアクセスできる Exchange メールボックスが決まります。

- 特定の Exchange 2003 サーバを選択した場合、Connection は、その Exchange サーバ上のメールボックスのみにアクセスできます。
- 特定の Exchange 2007 クライアント アクセス サーバを選択した場合、Connection は、Exchange 組織内のすべての Exchange 2007 メールボックスにアクセスできますが、Exchange 2003 メールボックスまたは Exchange 2010 メールボックスにはアクセスできません。
- 特定の Exchange 2010 クライアント アクセス サーバを選択した場合、Connection は、Exchange 組織内のすべての Exchange 2010 メールボックスおよび Exchange 2007 メールボックスにアクセスできますが、Exchange 2003 メールボックスにはアクセスできません。

Cisco Unity Connection 8.5 以降が通信する Exchange サーバを決定する

- Connection が Exchange サーバを検索することを選択した場合は、Connection が Exchange 組織内のすべてのメールボックスにアクセスできるか、または Exchange 2007 メールボックスおよび Exchange 2010 メールボックスだけにアクセスできるかを、さらに選択できます。Exchange 組織に Exchange 2003 サーバが含まれている場合、Connection は常に Exchange バックエンドサーバと直接通信を行い、Exchange フロントエンドサーバとは通信を行いません。

次の点に注意してください。

- ユニファイド メッセージング サービスを追加する際に、特定の Exchange サーバを選択する場合は、複数のユニファイド メッセージング サービスを追加して、Connection による Exchange 組織のすべてのメールボックスへのアクセスを可能にする必要がある場合があります。表 2-3 では、複数のユニファイド メッセージング サービスを追加する必要がある場合について説明します。

表 2-3 Exchange のバージョンに基づくユニファイド メッセージング サービスの追加

Connection がアクセスするメールボックスがある Exchange のバージョン			次のユニファイド メッセージング サービスを作成
Exchange 2003	Exchange 2007	Exchange 2010	
Yes	No	No	• Connection がアクセスする Exchange 2003 サーバごとに 1 つ。
Yes	Yes	No	• Connection がアクセスする Exchange 2003 サーバごとに 1 つ。 • Exchange 2007 に 1 つ。
Yes	No	Yes	• Connection がアクセスする Exchange 2003 サーバごとに 1 つ。 • Exchange 2010 に 1 つ。
Yes	Yes	Yes	• Connection がアクセスする Exchange 2003 サーバごとに 1 つ。 • Exchange 2010 に 1 つ。このサービスは、Exchange 2007 メールボックスにもアクセスできます。
No	Yes	No	• Exchange 2007 に 1 つ。
No	Yes	Yes	• Exchange 2010 に 1 つ。このサービスは、Exchange 2007 メールボックスにもアクセスできます。
No	No	Yes	• Exchange 2010 に 1 つ。

- Connection が Exchange サーバを検索できるように選択した場合、Connection は、メールボックスを Exchange の 1 つのバージョンから別のバージョンに移動したことを自動的に検出し、Connection のユーザ設定を自動的に更新できます。
- 特定の Exchange サーバを選択した場合、Connection は、メールボックスを 1 つの Exchange サーバから別のサーバに移動したことを検出できる場合があります、新しい場所の Exchange メールボックスに自動的にアクセスできます。Connection がメールボックスの移動を検出できない場合は、ユニファイド メッセージング サービスまたはユニファイド メッセージング アカウントを手動で更新する必要があります。
 - ユニファイド メッセージング サービスがアクセスするすべての Exchange メールボックスを移動した場合：ユニファイド メッセージング サービスを更新して、別の Exchange サーバにアクセスします。
 - ユニファイド メッセージング サービスがアクセスする Exchange メールボックスの一部だけを移動した場合：ユニファイド メッセージング アカウントの設定を更新して、新しい場所のメールボックスにアクセスするユニファイド メッセージング サービスを使用します。

表 2-4 に、Exchange サーバ間でのメールボックスの移動を Connection が自動的に検出できる場合と検出できない場合を示します。Connection がメールボックスの移動を自動的に検出できない場合に、Connection のユーザ設定を更新する方法の詳細については、「[Microsoft Exchange メールボックスの Connection 8.5 以降への移行 \(ユニファイド メッセージング設定済みのユーザ向け\)](#)」の章を参照してください。

表 2-4 特定の Exchange サーバの選択 : Exchange サーバ間でのメールボックスの移動を Connection が検出できる場合

選択したサーバ	次の Exchange バージョン間でのメールボックスの移動を Connection が自動的に検出可能					
	2003 と 2003	2003 と 2007	2003 と 2010	2007 と 2007	2007 と 2010	2010 と 2010
Exchange 2003 サーバ	No	No	No	No	No	No
Exchange 2007 サーバ	No	No	No	Yes	No	No
Exchange 2010 サーバ	No	No	No	Yes	Yes	Yes

- Connection が DNS を使用するように設定されていない場合、特定の Exchange サーバを選択する必要があります。これによって、この項で説明したように、組織内のすべての Exchange メールボックスにアクセスできない場合、複数のユニファイド メッセージング サービスを作成する必要があります。
- 特定の Exchange サーバを選択し、そのサーバが機能を停止した場合、Connection は Exchange メールボックスにアクセスできません。Connection で Exchange サーバを検索できるように選択し、Connection が現在通信している Exchange サーバが機能を停止した場合、Connection は別の Exchange サーバを検索し、そのサーバを経由してメールボックスへのアクセスを開始します。

Cisco Unity Connection 8.5 以降での Exchange 認証と SSL 設定の確認

Connection がアクセスする Exchange サーバが目的の認証モード (基本、ダイジェスト、または NTLM) と Web ベースのプロトコル (HTTPS または HTTP) を使用するように設定されていることを確認します。Connection がアクセスする Exchange サーバの詳細については、「[Cisco Unity Connection 8.5 以降が通信する Exchange サーバを決定する](#)」(P.2-17) を参照してください。

のちにタスク リストでは、1 つまたは複数の Connection ユニファイド メッセージング サービスを作成し、この項で該当する手順を行う際に Exchange で指定する同じ認証モードと Web ベースのプロトコルを選択します。

該当する項にある手順を実行します。

- 「[Cisco Unity Connection 8.5 以降での Exchange 2010 認証と SSL 設定の確認](#)」(P.2-20)
- 「[Cisco Unity Connection 8.5 以降での Exchange 2007 認証と SSL 設定の確認](#)」(P.2-22)
- 「[Cisco Unity Connection 8.5 以降での Exchange 2003 認証と SSL 設定の確認](#)」(P.2-24)

Cisco Unity Connection 8.5 以降での Exchange 2010 認証と SSL 設定の確認

Cisco Unity Connection 8.5 での Exchange 2010 認証と SSL 設定を確認する方法

- ステップ 1** Exchange 2010 クライアント アクセス サーバにサインインするために Connection で使用する認証のタイプ（基本、ダイジェスト、または NTLM）を決定します。次のサーバで同じタイプの認証が使用されるように設定する必要があります。
- すべての Exchange 2010 クライアント アクセス サーバ。
 - すべての Exchange 2007 クライアント アクセス サーバ(Connection でアクセスできるようにする Exchange 2007 メールボックスがある場合)。
 - Connection でアクセスできるようにするメールボックスがあるすべての Exchange 2003 サーバ(ある場合)。
- ステップ 2** Connection と Exchange 2010 クライアント アクセス サーバの通信に対して SSL 暗号化を行うかどうかを決定します。行う場合、次のサーバで同じ SSL 設定を指定する必要があります。
- すべての Exchange 2010 クライアント アクセス サーバ。
 - すべての Exchange 2007 クライアント アクセス サーバ(Connection でアクセスできるようにする Exchange 2007 メールボックスがある場合)。
 - Connection でアクセスできるようにするメールボックスがあるすべての Exchange 2003 サーバ(ある場合)。
- ステップ 3** Connection にある同じ Exchange 2010 クライアント アクセス サーバにアクセスできるサーバにサインインします。ローカル管理者グループのメンバーであるアカウントを使用します。
- ステップ 4** Windows の [スタート (Start)] メニューで、[プログラム (Programs)] > [管理ツール (Administrative Tools)] > [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ (Internet Information Services (IIS) Manager)] を選択します。
- ステップ 5** 設定を確認する最初の Exchange 2010 クライアント アクセス サーバの場合、左ペインで [<servername>] > [サイト (Sites)] > [既定の Web サイト (Default Website)] を展開します。
- ステップ 6** [既定の Web サイト (Default Website)] で、[Autodiscover] を選択します。
- ステップ 7** 中央のペインの IIS セクションで、[認証 (Authentication)] をダブルクリックします。
- ステップ 8** [状況 (Status)] カラムで、Exchange クライアント アクセス サーバにサインインするためにユニファイドメッセージング サービス アカウントで使用する認証のタイプに対して [有効 (Enabled)] と示されていることを確認します。ユニファイドメッセージング サービス アカウントを作成する場合、同じタイプの認証を使用するように Connection を設定します。
- Connection は次のタイプの認証だけをサポートします。
- Basic
 - Digest
 - NTLM
- ステップ 9** 設定を変更した場合、右ペインで [適用 (Apply)] を選択します。
- ステップ 10** 左ペインで再び [Autodiscover] を選択します。
- ステップ 11** 中央のペインの IIS セクションで、[SSL 設定 (SSL Settings)] をダブルクリックします。
- ステップ 12** [SSL が必要 (Require SSL)] チェックボックスがオンの場合、次の手順を実行します。

- Connection でユニファイド メッセージング サービスを作成する場合、Web ベースのプロトコルに対して HTTPS を選択する必要があります。
- Exchange サーバから SSL 証明書をダウンロードし、Connection サーバにインストールする必要があります。

ステップ 13 設定を変更した場合、右ペインで [適用 (Apply)] を選択します。

ステップ 14 左ペインの [既定の Web サイト (Default Website)] で、[EWS] を選択します。

ステップ 15 中央のペインの IIS セクションで、[認証 (Authentication)] をダブルクリックします。

ステップ 16 [状況 (Status)] カラムで、Exchange メールボックスにサインインするためにユニファイド メッセージング サービス アカウントで使用する認証のタイプに対して [有効 (Enabled)] と示されていることを確認します。ユニファイド メッセージング サービス アカウントを作成する場合、同じタイプの認証を使用するように Connection を設定します。



注意

ユニファイド メッセージング サービス アカウントは、[ステップ 8](#) で自動検出に対して指定した EWS に同じタイプの認証を使用する必要があります。

Connection は次のタイプの認証だけをサポートします。

- Basic
- Digest
- NTLM

ステップ 17 設定を変更した場合、右ペインで [適用 (Apply)] を選択します。

ステップ 18 左ペインで再び [EWS] を選択します。

ステップ 19 中央のペインの IIS セクションで、[SSL 設定 (SSL Settings)] をダブルクリックします。

ステップ 20 [SSL が必要 (Require SSL)] チェックボックスがオンの場合、次の手順を実行します。

- Connection でユニファイド メッセージング サービスを作成する場合、Web ベースのプロトコルに対して HTTPS を選択する必要があります。
- Exchange サーバから SSL 証明書をダウンロードし、Connection サーバにインストールする必要があります。



注意

ユニファイド メッセージング サービス アカウントは、[ステップ 12](#) で自動検出に対して指定した EWS に同じ SSL 設定を使用する必要があります。

ステップ 21 設定を変更した場合、右ペインで [適用 (Apply)] を選択します。

ステップ 22 Exchange 2010 Service Pack 1 以降がインストールされている場合、[ステップ 23](#) に進みます。

Exchange 2010 Service Pack 1 以降がインストールされていない場合、Exchange の EWS と自動検出の web.config ファイルを編集し、IIS Manager での設定に一致させます。

- EWS の場合、Microsoft Technet Web サイトの「Enable or Disable SSL on Exchange Web Services Virtual Directories」を参照してください。文書のタイトルで検索します。
- 自動検出に相当する文書は存在しませんが、EWS 文書での該当する手順を使用して、Exchange Server¥V14¥ClientAccess¥Autodiscover ディレクトリにある web.config ファイルを編集できます。

ステップ 23 Connection がアクセスできる他の Exchange 2010 クライアント アクセス サーバの場合、[ステップ 5](#) ～ [ステップ 22](#) を繰り返します。

ステップ 24 IIS Manager を閉じます。

Cisco Unity Connection 8.5 以降での Exchange 2007 認証と SSL 設定の確認

Cisco Unity Connection 8.5 での Exchange 2007 認証と SSL 設定を確認する方法

- ステップ 1** Exchange 2007 クライアント アクセス サーバにサインインするために Connection で使用する認証のタイプ（基本、ダイジェスト、または NTLM）を決定します。次のサーバで同じタイプの認証が使用されるように設定する必要があります。
- すべての Exchange 2007 クライアント アクセス サーバ。
 - すべての Exchange 2010 クライアント アクセス サーバ(Connection でアクセスできるようにする Exchange 2010 メールボックスがある場合)。
 - Connection でアクセスできるようにするメールボックスがあるすべての Exchange 2003 サーバ(ある場合)。
- ステップ 2** Connection と Exchange 2007 クライアント アクセス サーバの通信に対して SSL 暗号化を行うかどうかを決定します。行う場合、次のサーバで同じ SSL 設定を指定する必要があります。
- すべての Exchange 2007 クライアント アクセス サーバ。
 - すべての Exchange 2010 クライアント アクセス サーバ(Connection でアクセスできるようにする Exchange 2010 メールボックスがある場合)。
 - Connection でアクセスできるようにするメールボックスがあるすべての Exchange 2003 サーバ(ある場合)。
- ステップ 3** Connection にある同じ Exchange 2007 クライアント アクセス サーバにアクセスできるサーバにサインインします。ローカル管理者グループのメンバーであるアカウントを使用します。
- ステップ 4** Windows の [スタート (Start)] メニューで、[プログラム (Programs)] > [管理ツール (Administrative Tools)] > [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ (Internet Information Services (IIS) Manager)] を選択します。
- ステップ 5** 設定を確認する最初の Exchange 2007 サーバの場合、左ペインで [<servername>] > [サイト (Sites)] > [既定の Web サイト (Default Website)] を展開します。
- ステップ 6** [既定の Web サイト (Default Website)] で [Autodiscover] を右クリックし、[プロパティ (Properties)] を選択します。
- ステップ 7** [Autodiscover のプロパティ (Autodiscover Properties)] ダイアログボックスで、[ディレクトリ セキュリティ (Directory Security)] タブを選択します。
- ステップ 8** [認証とアクセス制御 (Authentication and Access Control)] セクションで、[編集 (Edit)] を選択します。
- ステップ 9** [認証方法 (Authentication Methods)] ダイアログボックスで、Exchange サーバを検出するためにユニファイド メッセージング サービス アカウントで使用する認証のタイプのチェックボックスがオンであることを確認します。ユニファイド メッセージング サービス アカウントを作成する場合、同じタイプの認証を使用するように Connection を設定します。
- Connection は次のタイプの認証だけをサポートします。
- Basic
 - Digest

- NTLM

ステップ 10 [OK] を選択します。

ステップ 11 [セキュリティで保護された通信 (Secure Communications)] セクションで、[編集 (Edit)] を選択します。

ステップ 12 [セキュリティで保護された通信 (Secure Communications)] ダイアログボックスで、[セキュリティで保護されたチャネル (SSL) を要求する (Require Secure Channel (SSL))] チェックボックスがオンになっている場合、次の手順を実行します。

- **Connection** でユニファイドメッセージング サービスを作成する場合、**Web** ベースのプロトコルに対して **HTTPS** を選択する必要があります。
- **Exchange** サーバから **SSL** 証明書をダウンロードし、**Connection** サーバにインストールする必要があります。

ステップ 13 [OK] を 2 回クリックします。

ステップ 14 左ペインの [既定の Web サイト (Default Website)] で、[EWS] を右クリックし、[プロパティ (Properties)] を選択します。

ステップ 15 [EWS プロパティ (EWS Properties)] ダイアログボックスで、[ディレクトリ セキュリティ (Directory Security)] タブを選択します。

ステップ 16 [認証とアクセス制御 (Authentication and Access Control)] セクションで、[編集 (Edit)] を選択します。

ステップ 17 [認証方法 (Authentication Methods)] ダイアログボックスで、**Exchange** サーバを検出するためにユニファイドメッセージング サービス アカウントで使用する認証のタイプのチェックボックスがオンであることを確認します。ユニファイドメッセージング サービス アカウントを作成する場合、同じタイプの認証を使用するように **Connection** を設定します。



注意

ユニファイドメッセージング サービス アカウントは、**ステップ 9** で自動検出に対して指定した EWS に同じタイプの認証を使用する必要があります。

Connection は次のタイプの認証だけをサポートします。

- Basic
- Digest
- NTLM

ステップ 18 [OK] を選択します。

ステップ 19 [セキュリティで保護された通信 (Secure Communications)] セクションで、[編集 (Edit)] を選択します。

ステップ 20 [セキュリティで保護された通信 (Secure Communications)] ダイアログボックスで、[セキュリティで保護されたチャネル (SSL) を要求する (Require Secure Channel (SSL))] チェックボックスがオンになっている場合、次の手順を実行します。

- **Connection** でユニファイドメッセージング サービスを作成する場合、**Web** ベースのプロトコルに対して **HTTPS** を選択する必要があります。
- **Exchange** サーバから **SSL** 証明書をダウンロードし、**Connection** サーバにインストールする必要があります。



注意

ユニファイドメッセージング サービス アカウントは、**ステップ 12** で自動検出に対して指定した EWS に同じ **SSL** 設定を使用する必要があります。

ステップ 21 [OK] を 2 回クリックします。

ステップ 22 Connection がアクセスできる他の Exchange 2007 クライアント アクセス サーバの場合、[ステップ 5](#) ~ [ステップ 21](#) を繰り返します。

ステップ 23 IIS Manager を閉じます。

Cisco Unity Connection 8.5 以降での Exchange 2003 認証と SSL 設定の確認

Cisco Unity Connection 8.5 での Exchange 2003 認証と SSL 設定を確認する方法

ステップ 1 Exchange 2003 サーバにサインインするために Connection で使用する認証のタイプ（基本、ダイジェスト、または NTLM）を決定します。

Connection が Exchange サーバを検索するように設定する場合、次のサーバで同じタイプの認証が使用されるように設定する必要があります。

- Connection でアクセスできるようにするメールボックスがあるすべての Exchange 2003 サーバ（ある場合）。
- すべての Exchange 2007 クライアント アクセス サーバ。
- すべての Exchange 2010 クライアント アクセス サーバ(Connection でアクセスできるようにする Exchange 2010 メールボックスがある場合）。

特定の Exchange サーバを選択する場合、すべての Exchange サーバで同じタイプの認証が使用されるように設定する必要はありません。各 Exchange サーバは別々のユニファイドメッセージング サービスに関連付けられているため、Exchange の認証モードは、対応しているユニファイドメッセージング サービスの認証モードにだけ一致している必要があります。



(注) 特定の Exchange 2003 フロントエンド サーバを選択する場合、基本認証を使用しなければならない場合があります。詳細については、Microsoft 社の Web サイトの、TechNet Library の Exchange Server 2003 セクションにある「Authentication Mechanisms for HTTP」を参照してください。

ステップ 2 Connection と Exchange 2007 クライアント アクセス サーバの通信に対して SSL 暗号化を行うかどうかを決定します。行う場合、次のサーバで同じ SSL 設定を指定する必要があります。

- Connection でアクセスできるようにするメールボックスがあるすべての Exchange 2003 サーバ（ある場合）。
- すべての Exchange 2007 クライアント アクセス サーバ。
- すべての Exchange 2010 クライアント アクセス サーバ(Connection でアクセスできるようにする Exchange 2010 メールボックスがある場合）。

ステップ 3 Connection にある同じ Exchange 2003 サーバにアクセスできるサーバにサインインします。ローカル管理者グループのメンバーであるアカウントを使用します。

ステップ 4 Windows の [スタート (Start)] メニューで、[プログラム (Programs)] > [管理ツール (Administrative Tools)] > [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ (Internet Information Services (IIS) Manager)] を選択します。

- ステップ 5** 設定を確認する最初の Exchange 2003 サーバの場合、左ペインで [<servername>] > [Web サイト (Web Sites)] > [既定の Web サイト (Default Website)] を展開します。
- ステップ 6** [既定の Web サイト (Default Website)] で [Exchange] を右クリックし、[プロパティ (Properties)] を選択します。
- ステップ 7** [Exchange のプロパティ (Exchange Properties)] ダイアログボックスで、[ディレクトリ セキュリティ (Directory Security)] タブを選択します。
- ステップ 8** [認証とアクセス制御 (Authentication and Access Control)] セクションで、[編集 (Edit)] を選択します。
- ステップ 9** [認証方法 (Authentication Methods)] ダイアログボックスで、Exchange サーバにサインインするためにユニファイド メッセージング サービス アカウントで使用する認証のタイプのチェックボックスがオンであることを確認します。ユニファイド メッセージング サービスを作成する場合、Connection で同じタイプの認証が使用されるように設定します。
- Connection は次のタイプの認証だけをサポートします。
- Basic
 - Digest
 - NTLM
- ステップ 10** [OK] を選択します。
- ステップ 11** [セキュリティで保護された通信 (Secure Communications)] セクションで、[編集 (Edit)] を選択します。
- ステップ 12** [セキュリティで保護された通信 (Secure Communications)] ダイアログボックスで、[セキュリティで保護されたチャネル (SSL) を要求する (Require Secure Channel (SSL))] チェックボックスがオンになっている場合、次の手順を実行します。
- Connection でユニファイド メッセージング サービスを作成する場合、Web ベースのプロトコルに対して HTTPS を選択する必要があります。
 - Exchange サーバから SSL 証明書をダウンロードし、Connection サーバにインストールする必要があります。
- ステップ 13** [OK] を 2 回クリックします。
- ステップ 14** Connection がアクセスできる他の Exchange 2003 サーバの場合、[ステップ 5](#) ～ [ステップ 13](#) を繰り返します。
- ステップ 15** IIS Manager を閉じます。

Cisco Unity Connection 8.5 以降での Active Directory でのユニファイド メッセージング サービス アカウントの作成と権限の付与

Connection では、ユニファイド メッセージング サービス アカウントと呼ばれる Active Directory アカウントを使用して、Exchange メールボックスにアクセスします。アカウントを作成後、Connection がユーザの代わりに操作を行うために必要な権限をアカウントに与えます。Exchange 2010 および 2007 の場合、操作は Exchange Web Services (EWS) を通して行われます。Exchange 2003 の場合、操作は WebDav を通して行われます。これらの操作には、Exchange メールボックスへのメッセージのアップロード、Exchange 内のメッセージの変更のトラッキング、Connection で行われた変更内容へのメッ

セージのアップデート、Connection でメッセージが削除された場合の Exchange でのメッセージの削除、Exchange でメッセージが削除された場合に Connection 内の削除された項目フォルダに移動できるようにトラッキングすることなどが含まれています。

次の項を参照してください。

- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降でのユニファイドメッセージング サービス アカウントの作成と権限の付与のためのタスク リスト」 (P.2-26)
- 「ローカル コンピュータ アカウントが Cisco Unity Connection 8.5 以降のクライアント アクセス サーバで Windows Authorization Access グループのメンバーであることを確認する (Exchange 2007 のみ)」 (P.2-27)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイドメッセージング サービス アカウントへの Application Impersonation 管理ロールの割り当て (Exchange 2010 のみ)」 (P.2-28)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイドメッセージング サービス アカウントへの権限の付与 (Exchange 2007 のみ)」 (P.2-28)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイドメッセージング サービス アカウントへの権限の付与 (Exchange 2003 のみ)」 (P.2-30)

Cisco Unity Connection 8.5 以降でのユニファイドメッセージング サービス アカウントの作成と権限の付与のためのタスク リスト

1. Connection で通信する Exchange サーバを含む Active Directory フォレストに 1 つまたは複数のドメイン ユーザ アカウントを作成します。次の点に注意してください。
 - Connection のユニファイドメッセージング サービス アカウントとして識別される名前をアカウントに与えます。
 - アカウントには Exchange メールボックスを作成しません。



注意

アカウントのメールボックスを作成した場合、ユニファイドメッセージングは適切に機能しません。

- 管理者グループにはアカウントを追加しません。
- アカウントを無効にしないでください。無効にすると、Connection がアカウントを使用して Exchange メールボックスにアクセスできなくなります。
- 会社のパスワードセキュリティ要件を満たすパスワードを指定します。
パスワードは AES 128 ビットの暗号化方式によって暗号化され、Connection データベースに保存されます。パスワードを暗号化するために使用されるキーはルート アクセスによってしかアクセスできず、ルート アクセスは Cisco TAC からのサポートによってしか使用できません。
- Connection クラスタにユニファイドメッセージングを設定すると、Connection は、自動的に両方の Connection サーバに同じユニファイドメッセージング サービス アカウントを使用します。
- サイト間ネットワークまたはサイト内ネットワークにユニファイドメッセージングを設定すると、複数の Connection サーバで同じユニファイドメッセージング サービス アカウントを使用できます。ただし、これは要件ではないので、機能や性能には影響を与えません。

2. Exchange 2007 を使用する場合：すべてのクライアント アクセス サーバで、ローカル コンピュータ アカウントが Windows Authorization Access グループのメンバーであることを確認します。「ローカル コンピュータ アカウントが Cisco Unity Connection 8.5 以降のクライアント アクセス サーバで Windows Authorization Access グループのメンバーであることを確認する (Exchange 2007 のみ)」(P.2-27) を参照してください。
3. Connection でアクセスできるようにする各バージョンの Exchange では、対応する項での手順を実行します。
 - 「Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイド メッセージング サービス アカウントへの Application Impersonation 管理ロールの割り当て (Exchange 2010 のみ)」(P.2-28)
 - 「Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイド メッセージング サービス アカウントへの権限の付与 (Exchange 2007 のみ)」(P.2-28)
 - 「Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイド メッセージング サービス アカウントへの権限の付与 (Exchange 2003 のみ)」(P.2-30)

ローカル コンピュータ アカウントが Cisco Unity Connection 8.5 以降のクライアント アクセス サーバで Windows Authorization Access グループのメンバーであることを確認する (Exchange 2007 のみ)

Exchange メールボックスが Exchange 2007 サーバにある Connection ユーザにユニファイド メッセージングを設定する場合、次の手順を実行し、これらのサーバのローカル コンピュータ アカウントが Windows Authorization Access グループのメンバーであること (デフォルト) を確認します。Connection がアクセスできるすべての Exchange 2007 クライアント アクセス サーバでこの手順を実行します。

ローカル コンピュータ アカウントが Cisco Unity Connection 8.5 のクライアント アクセス サーバで Windows Authorization Access グループのメンバーであることを確認する方法 (Exchange 2007 のみ)

- ステップ 1** Active Directory Users and Computers がインストールされているサーバにサインインします。ドメイン管理者グループのメンバーであるアカウントを使用します。
- ステップ 2** Windows の [スタート (Start)] メニューで、[管理ツール (Administrative Tools)] > [Active Directory ユーザーとコンピュータ (Active Directory Users and Computers)] をクリックします。
- ステップ 3** 左ペインで Connection がアクセスできる Exchange 2007 クライアント アクセス サーバを含むドメインの名前を展開し、[Builtin] を選択します。
- ステップ 4** 右ペインで [Windows Authorization Access Group のプロパティ (Windows Authorization Access Group)] を右クリックし、[プロパティ (Properties)] を選択します。
- ステップ 5** [Windows Authorization Access Group のプロパティ (Windows Authorization Access Group Properties)] ダイアログボックスで、[メンバ (Members)] タブを選択します。
- ステップ 6** [追加 (Add)] を選択します。
- ステップ 7** [ユーザー、連絡先、コンピュータ、またはグループの選択 (Select Users, Contacts, Computers, or Groups)] ダイアログボックスで、[オブジェクトの種類 (Object Types)] を選択します。
- ステップ 8** [コンピュータ (Computers)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 9** [OK] を選択し、[オブジェクトの種類 (Object Types)] ダイアログボックスを閉じます。

- ステップ 10** [ユーザー、連絡先、コンピュータ、またはグループの選択 (Select Users, Contacts, Computers, or Groups)] ダイアログボックスに、**ステップ 3** で展開したドメイン内のすべての Exchange 2007 クライアント アクセス サーバの名前を入力します。
- ステップ 11** [名前の確認 (Check Names)] を選択します。
- ステップ 12** [OK] を選択し、[ユーザー、連絡先、コンピュータ、またはグループの選択 (Select Users, Contacts, Computers, or Groups)] ダイアログボックスを閉じます。
- ステップ 13** [OK] を選択し、[Windows Authorization Access Group のプロパティ (Windows Authorization Access Group Properties)] ダイアログボックスを閉じます。
- ステップ 14** Connection がアクセスできる Exchange 2007 クライアント アクセス サーバを含む他のドメインの場合、**ステップ 3** ~ **ステップ 13** を繰り返します。

Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイドメッセージング サービス アカウントへの Application Impersonation 管理ロールの割り当て (Exchange 2010 のみ)

Cisco Unity Connection 8.5 のユニファイドメッセージング サービス アカウントに ApplicationImpersonation 管理ロールを割り当てる方法 (Exchange 2010 のみ)

- ステップ 1** Exchange Management Shell がインストールされているサーバにサインインします。Enterprise Admins グループのメンバーであるアカウント、またはコンフィギュレーション コンテナ内の Exchange オブジェクトでの権限を付与する権限を持つアカウントのいずれかを使用して、サインインします。
- ステップ 2** Exchange Management Shell で次のコマンドを実行し、Exchange 2010 のユニファイドメッセージング サービス アカウントに ApplicationImpersonation 管理ロールを割り当てます。

```
new-ManagementRoleAssignment -Name:RoleName -Role:ApplicationImpersonation
-User:'Account'
```

定義 :

- *RoleName* は、割り当てに与える名前です (ConnectionUMServicesAcct など)。
get-ManagementRoleAssignment を実行すると、*RoleName* に入力する名前が表示されます。
- *Account* は、domain¥alias 形式のユニファイドメッセージング サービス アカウントの名前です。

- ステップ 3** 複数のユニファイドメッセージング サービス アカウントを作成した場合、残りのアカウントに対して **ステップ 2** を繰り返します。各ユニファイドメッセージング サービス アカウントの *RoleName* には、異なる値を指定します。

Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイドメッセージング サービス アカウントへの権限の付与 (Exchange 2007 のみ)

すべてのユニファイドメッセージング サービス アカウントに対して、次の手順を実行します。

Cisco Unity Connection 8.5 のユニファイド メッセージング サービス アカウントに権限を付与する方法 (Exchange 2007 のみ)

ステップ 1 Exchange Management Shell がインストールされているサーバにサインインします。Enterprise Admins グループのメンバーであるアカウント、またはコンフィギュレーション コンテナ内の Exchange オブジェクトでの権限を付与する権限を持つアカウントのいずれかを使用して、サインインします。

ステップ 2 Exchange Management Shell で次のコマンドを実行し、Exchange 2007 のユニファイド メッセージング サービス アカウントに必要な権限を付与します。

Add-ADPermission -Identity (PermissionLevel).DistinguishedName -User (Get-User -Identity Account | select-object).identity -ExtendedRight ms-Exch-EPI-Impersonation

Add-ADPermission -Identity (PermissionLevel).DistinguishedName -User (Get-User -Identity Account | select-object).identity -ExtendedRight ms-Exch-EPI-May-Impersonate

Add-ADPermission -Identity (PermissionLevel).DistinguishedName -User (Get-User -Identity Account | select-object).identity -ExtendedRights Receive-As

定義：

- *PermissionLevel* は、ユニファイド メッセージング サービス アカウントに、個々のサーバにアクセスする権限を与えるか、または組織内のすべての Exchange 2007 サーバにアクセスする権限を与えるかによって決定されます。
 - ユニファイド メッセージング サービス アカウントに、個々の Exchange サーバにアクセスする権限を与えるには、*PermissionLevel* を次のコマンドに置き換えます。

Get-ExchangeServer -Identity ServerName

ここで、*ServerName* は、ユニファイド メッセージング サービス アカウントがアクセスできる Exchange 2007 サーバの名前です。

- ユニファイド メッセージング サービス アカウントに、Exchange 組織内のすべての Exchange 2007 サーバにアクセスする権限を与えるには、*PermissionLevel* を次のコマンドに置き換えます。

Get-OrganizationConfig

Add-ADPermission コマンドレットおよび Identity パラメータの詳細については、Exchange 2007 のヘルプを参照してください。

- *Account* は、domain¥alias 形式のユニファイド メッセージング サービス アカウントの名前です。

ステップ 3 複数のユニファイド メッセージング サービス アカウントを作成した場合、残りのアカウントに対して **ステップ 2** を繰り返します。

ステップ 4 **ステップ 2** で個々の Exchange サーバに権限を設定し、複数の Exchange 2007 サーバがある場合、次のサーバで **ステップ 1** ~ **ステップ 3** を繰り返します。

- Connection がアクセスできる他のすべての Exchange 2007 クライアント アクセス サーバ。
- Connection でアクセスできるようにするメールボックスがあるすべての Exchange 2007 メールボックス サーバ。

Cisco Unity Connection 8.5 でローカルでサインインする権限をユニファイドメッセージング サービス アカウントに付与する方法 (Exchange 2007 のみ)

-
- ステップ 1** Connection がアクセスできる Exchange 2007 クライアント アクセス サーバで、ローカル管理者グループのメンバーであるアカウントを使用してサインインします。
- ステップ 2** Windows の [スタート (Start)] メニューで、[管理ツール (Administrative Tools)] > [ローカル セキュリティ ポリシー (Local Security Policy)] をクリックします。
- ステップ 3** 左ペインで、[ローカル ポリシー (Local Policies)] を展開し、[ユーザー権利の割り当て (User Rights Assignment)] を選択します。
- ステップ 4** 右ペインで [ローカル ログオンを許可 (Allow Log on Locally)] を右クリックし、[プロパティ (Properties)] を選択します。
- ステップ 5** [ローカル ログオンを許可のプロパティ (Allow Log on Locally Properties)] ダイアログボックスの [ローカル セキュリティの設定 (Local Security Setting)] タブで、[ユーザーまたはグループの追加 (Add User or Group)] を選択します。
- ステップ 6** [ユーザー、コンピュータ、またはグループの選択 (Select Users, Computers, or Groups)] ダイアログボックスに、「Cisco Unity Connection 8.5 以降でのユニファイドメッセージング サービス アカウントの作成と権限の付与のためのタスク リスト」(P.2-26) のタスク 1. で作成したユニファイドメッセージング サービス アカウントの名前を入力します。
- サイト内ネットワークまたはサイト間ネットワークが設定されている場合や複数のユニファイドメッセージング サービス アカウントを作成した場合には、この Exchange 2007 クライアント アクセス サーバにアクセスする Connection サーバのユニファイドメッセージング サービス アカウントの名前を入力します。
- ステップ 7** [名前の確認 (Check Names)] を選択します。
- ステップ 8** [OK] を選択し、[ユーザー、コンピュータ、またはグループの選択 (Select Users, Computers, or Groups)] ダイアログボックスを閉じます。
- ステップ 9** [OK] を選択し、[ローカル ログオンを許可プロパティ (Allow Log on Locally Properties)] ダイアログボックスを閉じます。
- ステップ 10** [ローカル セキュリティの設定 (Local Security Setting)] を閉じます。
- ステップ 11** 次のサーバで **ステップ 1** ~ **ステップ 10** を繰り返します。
- Connection がアクセスできる他のすべての Exchange 2007 クライアント アクセス サーバ。
 - Connection でアクセスできるようにするメールボックスがあるすべての Exchange 2007 メールボックス サーバ。
-

Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイドメッセージング サービス アカウントへの権限の付与 (Exchange 2003 のみ)

Connection が Exchange 2003 にアクセスできるように、ユニファイドメッセージング サービス アカウントに権限を付与するには、次の手順を実行します。

Cisco Unity Connection 8.5 のユニファイド メッセージング サービス アカウントに権限を付与する方法 (Exchange 2003 のみ)

- ステップ 1** Exchange System Manager がインストールされているサーバにサインインします。Enterprise Admins グループのメンバーであるアカウント、またはコンフィギュレーション コンテナ内の Exchange オブジェクトでの権限を付与する権限を持つアカウントのいずれかを使用して、サインインします。
- ステップ 2** Windows の [スタート (Start)] メニューで、[プログラム (Programs)] > [Microsoft Exchange] > [System Manager] を選択します。
- ステップ 3** 左側のペインで、[サーバ (Servers)] を展開します。
- ステップ 4** Cisco Unity Connection がアクセスするメールボックスが格納された Exchange サーバ名を右クリックし、[プロパティ (Properties)] を選択します。
- ステップ 5** [<サーバ名> のプロパティ (<Server name> Properties)] ダイアログボックスで、[セキュリティ (Security)] タブを選択します。
- ステップ 6** [追加 (Add)] を選択します。
- ステップ 7** [ユーザー、コンピュータ、またはグループの選択 (Select Users, Computers, or Groups)] ダイアログボックスの [選択するオブジェクト名を入力してください (Enter the Object Names to Select)] フィールドで、ユニファイド メッセージング サービス アカウントの名前を入力します。
- ステップ 8** [名前の確認 (Check Names)] を選択します。
- ステップ 9** [OK] を選択し、ダイアログボックスを閉じます。
- ステップ 10** [<サーバ名> のプロパティ (<Server name> Properties)] ダイアログボックスの [グループ名またはユーザー名 (Group or User Names)] リストで、ユニファイドメッセージング サービス アカウントの名前を選択します。
- ステップ 11** [<アカウント名> のアクセス許可 (Permissions For <Account name>)] リストで、次の権限の [許可 (Allow)] チェックボックスをオンにします。
 - **Send As**
 - **Receive As**
 - **Administer Information Store**
- ステップ 12** [OK] を選択し、 [<サーバ名> のプロパティ (<Server name> Properties)] ダイアログボックスを閉じます。
- ステップ 13** アクセスするその他の Exchange サーバごとに、 [ステップ 4](#) ~ [ステップ 12](#) を繰り返します。

Cisco Unity Connection 8.5 のユニファイド メッセージング サービス アカウントの EWS 制限の削除 (Exchange 2010 のみ)

ユニファイドメッセージングに設定された Connection ユーザが Exchange 2010 にメールボックスを持っている場合、新しいメールボックスのポリシーを作成し、ユニファイドメッセージング サービス アカウントに適用することによって、ユニファイドメッセージング サービス アカウントの Exchange 2010 EWS 制限を削除します。EWS 制限を削除しない場合、メッセージが同期化されず、

ステータスの変更 (未読から既読への変更など)、サブジェクト行の変更、およびプライオリティの変更は複製できません。さらに、Exchange の予定表と連絡先にアクセスしようとするすると障害が発生する可能性があります。



(注)

Exchange 2010 Service Pack 1 よりも前のバージョンでは、EWS 制限はデフォルトではオフでした。Service Pack 1 (デフォルトで制限をオンにする) がインストールされていない場合、次の手順を実行することを推奨します。この手順を実行しない場合、Service Pack 1 をインストールすると、Connection の機能が影響を受けます。

Cisco Unity Connection 8.5 のユニファイド メッセージング サービス アカウントの EWS 制限を削除する方法 (Exchange 2010 のみ)

ステップ 1 Exchange Management Shell がインストールされているサーバにサインインします。Enterprise Admins グループのメンバーであるアカウント、またはコンフィギュレーション コンテナ内の Exchange オブジェクトでの権限を付与する権限を持つアカウントのいずれかを使用して、サインインします。

ステップ 2 制限のない EWS 接続を持つ新しいポリシーを作成します。

```
New-ThrottlingPolicy -Name "<ConnectionUnifiedMessagingServicesPolicy>"
-EWSMaxConcurrency $null -EWSMaxSubscriptions $null -EWSPercentTimeInCAS $null
-EWSPercentTimeInMailboxRPC $null
```

ここで、*ConnectionUnifiedMessagingServicesPolicy* は、ポリシーに割り当てる名前です。

ステップ 3 新しいポリシーをユニファイド メッセージング サービス アカウントに適用します。

```
Set-ThrottlingPolicyAssociation -Identity "<ConnectionUnifiedMessagingServicesAccount>"
-ThrottlingPolicy "<ConnectionUnifiedMessagingServicesPolicy>"
```

定義 :

- *ConnectionUnifiedMessagingServicesAccount* は、「Cisco Unity Connection 8.5 以降での Active Directory でのユニファイド メッセージング サービス アカウントの作成と権限の付与」(P.2-25) で作成したアカウントの名前です。
- *ConnectionUnifiedMessagingServicesPolicy* は、ステップ 2 で作成したポリシーの名前です。



(注)

Set-ThrottlingPolicyAssociation コマンドは、Exchange 2010 のバージョン 14.00.0639.021 ではサポートされていません。Exchange 2010 のバージョン 14.00.0639.021 を使用しているユーザは、既存のロットリング ポリシー設定を変更できないため、デフォルトのポリシーが適用されます。

ステップ 4 メールボックスが新しいポリシーを使用していることを確認します。

```
Get-ThrottlingPolicyAssociation -Identity "<ConnectionUnifiedMessagingServicesAccount>" |
findstr "ThrottlingPolicy"
```

ステップ 5 複数のユニファイド メッセージング サービス アカウントを作成した場合、残りのアカウントに対してステップ 3 とステップ 4 を繰り返します。

ステップ 6 CAS ロールを持つ各 Exchange 2010 サーバで、Microsoft Exchange RPC Client Access サービスを再起動します。

Cisco Unity Connection 8.5 以降の Exchange 2003 サーバでの WebDav サービスの有効化

Connection で Exchange 2003 サーバのメールボックスにアクセスする場合、Internet Information Services が WebDav サービスを許可するように設定する必要があります。次の手順を実行します。

Cisco Unity Connection 8.5 の Exchange 2003 で WebDav サービスを有効にする方法

- ステップ 1** Connection サーバがアクセスできる同じ Exchange 2003 サーバにアクセスできるサーバにサインインします。ローカル管理者グループのメンバーであるアカウントを使用します。
- ステップ 2** Windows の [スタート (Start)] メニューで、[プログラム (Programs)] > [管理ツール (Administrative Tools)] > [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ (Internet Information Services (IIS) Manager)] を選択します。
- ステップ 3** 設定を確認する最初の Exchange 2003 サーバの場合、左ペインで [<servername>] を展開し、[Web サービス拡張 (Web Service Extensions)] を選択します。
- ステップ 4** 右ペインで、WebDAV の [状況 (Status)] カラムの値を確認します。
 - 値が [許可 (Allowed)] の場合、[ステップ 5](#) に進みます。
 - 値が [禁止 (Prohibited)] の場合、[許可 (Allow)] を選択します。
- ステップ 5** Connection がアクセスできる他の Exchange 2003 サーバの場合、[ステップ 3](#) と [ステップ 4](#) を繰り返します。
- ステップ 6** IIS Manager を閉じます。

Cisco Unity Connection 8.5 以降から Exchange にアクセスするためのユニファイド メッセージング サービスの作成

1 つまたは複数のユニファイド メッセージング サービスを作成するには、次の手順を実行します。

Cisco Unity Connection 8.5 から Exchange にアクセスするためにユニファイド メッセージング サービスを作成する方法

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ユニファイド メッセージング (Unified Messaging)] を展開し、[ユニファイド メッセージング サービス (Unified Messaging Services)] を選択します。
- ステップ 2** [ユニファイド メッセージング サービスの検索 (Search Unified Messaging Services)] ページで、[新規追加 (Add New)] を選択します。
- ステップ 3** ページの下部にある [メールへのメッセージアクション (Message Action for Email)] リストと [FAX へのメッセージアクション (Message Action for Fax)] リストで選択するオプションを決定します。(フィールドの詳細については、[ヘルプ (Help)] メニューの [ページ上 (This Page)] を選択してください)。

いずれかのリストで [メッセージのリレー (Relay the Message)] または [メッセージを受信してリレー (Accept and Relay the Message)] を選択する場合、最初に [システム設定 (System Settings)] > [SMTP の設定 (SMTP Configuration)] > [Smart Host] で SMTP Smart Host を設定する必要があります。Connection の管理では、SMTP Smart Host が設定されていない場合、これらの設定を持つ新しいユニファイド メッセージングの設定を保存できません。

- ステップ 4** [新規ユニファイド メッセージング サービス (New Unified Messaging Service)] ページの [タイプ (Type)] リストで、[Exchange/BPOS -D] を選択します。
- ステップ 5** [有効 (Enabled)] チェックボックスをオンにして、サービスを有効にします。
- 単一受信トレイが有効なユニファイド メッセージング サービスを後で無効にする場合の同期化操作の詳細については、「[単一受信トレイを無効にしてから再度有効にした場合の、Connection メールボックスと Exchange メールボックスの同期への影響](#)」(P.2-10) を参照してください。
- ステップ 6** [表示名 (Display Name)] フィールドに、わかりやすい名前を入力します。
- Exchange の複数のユニファイド メッセージング サービスを作成する場合、これがユニファイド メッセージングにユーザを設定する際に [ユーザ (Users)] > [ユニファイド メッセージング アカウント (Unified Messaging Accounts)] ページに表示される名前であることに注意してください。各ユーザの正しいユニファイド メッセージング サービスを簡単に選択できるような表示名を入力します。
- ステップ 7** [Web ベースの認証モード (Web-Based Authentication Mode)] リストで、「[Cisco Unity Connection 8.5 以降での Exchange 認証と SSL 設定の確認](#)」(P.2-19) の該当する手順を実行した際に確認した同じ認証モードを選択します。
- ステップ 8** [Web ベースのプロトコル (Web-Based Protocol)] リストで、「[Cisco Unity Connection 8.5 以降での Exchange 認証と SSL 設定の確認](#)」(P.2-19) の該当する手順を実行した際に確認した同じ Web ベースのプロトコルを選択します。
- ステップ 9** Connection で Exchange サーバからの SSL 証明書を検証する場合、[Exchange サーバの証明書の検証 (Validate Certificates for Exchange Servers)] チェックボックスをオンにします。
- 自己署名証明書は検証できません。[Web ベースのプロトコル (Web-Based Protocol)] リストから [HTTPS] を選択し、自己署名証明書を使用している場合、[Exchange サーバの証明書の検証 (Validate Certificates for Exchange Servers)] チェックボックスをオンにしないでください。チェックボックスをオンにすると、Connection は Exchange にアクセスできなくなります。
- ステップ 10** Exchange サーバセクションで、Connection で特定の Exchange サーバにアクセスする場合、[ステップ 11](#)に進みます。
- Connection で自動的に Exchange 2010 または Exchange 2007 クライアント アクセス サーバ、または Exchange 2003 サーバを検索する場合、次の手順を実行します。
- a. [Exchange サーバの検索 (Search for Exchange Servers)] を選択します。
 - b. [Active Directory DNS ドメイン名 (Active Directory DNS Domain Name)] フィールドで、Connection で Exchange サーバの検索を開始する Active Directory ドメインの DNS ドメイン名を入力します。
 - c. 複数の Active Directory サイトに Exchange サーバがある場合、Connection による Exchange サーバの検出に使用したいドメイン コントローラがあるサイトを指定すると、パフォーマンスが向上します。[Active Directory サイト名 (Active Directory Site Name)] フィールドにサイトの名前を入力します。
 - d. [Exchange のバージョン (Exchange Versions)] の下で、Connection からアクセスしたいメールボックスがある Exchange のバージョンを選択します。
 - e. [ドメイン コントローラとの通信に使用するプロトコル (Protocol Used to Communicate with Domain Controllers)] リストで、Connection が Exchange サーバの検出に Active Directory と通信する際、LDAP または Secure LDAP (LDAPS) を使用する必要があるかどうかを選択します。

**注意**

[Exchange サーバの検索 (Search for Exchange Servers)] を選択すると、Connection が、[Web ベースの認証モード (Web-Based Authentication Mode)] リストで選択した認証方法にかかわらず、基本認証を使用して Active Directory サーバと通信します。この結果、ユニファイド メッセージング サービス アカウントのユーザ名とパスワード、および Connection と Active Directory サーバ間のすべての通信はクリア テキストになります。このデータを暗号化したい場合は、[ドメイン コントローラとの通信に使用するプロトコル (Protocol Used to Communicate with Domain Controllers)] リストで Secure LDAP (LDAPS) を選択し、Active Directory サーバから tomcat-trust および Connection-trust の両方のロケーションへの SSL 証明書を発行した証明機関から証明書をアップロードする必要があります。「[ユニファイド メッセージングのための Cisco Unity Connection 8.5 以降および Exchange の設定の作業リスト](#)」(P.2-11) のタスク 15. を参照してください。

- f. Connection で Active Directory ドメイン コントローラからの SSL 証明書を検証する場合は、[Active Directory ドメイン コントローラの証明書の検証 (Validate Certificates for Active Directory Domain Controllers)] チェックボックスをオンにします。

自己署名証明書は検証できません。[ドメイン コントローラとの通信に使用するプロトコル (Protocol Used to Communicate with Domain Controllers)] リストで **LDAPS** を選択し、自己署名証明書を使用している場合は、[Active Directory ドメイン コントローラの証明書の検証 (Validate Certificates for Active Directory Domain Controllers)] チェックボックスをオンにしないでください。チェックボックスをオンにすると、Exchange サーバを検索する際、Connection がドメイン コントローラにアクセスできなくなります。

- g. [ステップ 12](#) に進みます。

ステップ 11 Connection を特定の Exchange サーバにアクセスするよう設定するには、次の手順を実行します。

- a. [Exchange サーバを指定する (Specify an Exchange Server)] を選択します。
- b. [Exchange サーバ (Exchange Server)] フィールドに、Connection がアクセスする Exchange サーバの完全修飾ドメイン名または IP アドレスを入力します。Exchange 2010 または Exchange 2007 サーバの名前を入力する場合は、クライアント アクセス サーバの名前を入力する必要があります。
- c. [Exchange サーバタイプ (Exchange Server Type)] リストで、[ステップ b.](#) で指定したサーバにインストールされている Exchange のバージョンを選択します。

ステップ 12 [ユーザ名 (Username)] および [パスワード (Password)] フィールドに「[Cisco Unity Connection 8.5 以降での Active Directory でのユニファイド メッセージング サービス アカウントの作成と権限の付与](#)」(P.2-25) で作成した Active Directory アカウントのユーザ名とパスワードを入力します。

ユーザ名を domain¥username 形式で指定した場合は、ドメイン名に FQDN 形式を使用しないでください。

ステップ 13 [サービス機能 (Service Capabilities)] で、このユニファイド メッセージング サービスで使用する機能を選択します。



(注) Connection ユーザのユニファイド メッセージングを設定する場合は、この段階で有効にした機能も個別のユーザに対して無効にできます。ただし、ここで無効にした機能は個別のユーザに対して有効にはできません。

単一受信トレイが有効なユニファイド メッセージング サービスを後で無効にする場合の同期化操作の詳細については、「[単一受信トレイを無効にしてから再度有効にした場合の、Connection メールボックスと Exchange メールボックスの同期への影響](#)」(P.2-10) を参照してください。

ステップ 14 [Connection と Exchange メールボックスの同期 (単一受信トレイ) (Synchronize Connection and Exchange Mailboxes (Single Inbox))] で、メールとファクスに対するメッセージアクションを選択します。(フィールドの詳細については、[ヘルプ (Help)] メニューの [ページ上 (This Page)] を選択してください)。

ステップ 15 [保存 (Save)] を選択します。



(注) [Web ベースのプロトコル (Web-Based Protocol)] リストで **HTTPS** を選択した場合、または [ドメイン コントローラとの通信に使用するプロトコル (Protocol Used to Communicate with Domain Controllers)] リストで **Secure LDAP (LDAPS)** を選択した場合は、「[ユニファイドメッセージングのための Cisco Unity Connection 8.5 以降および Exchange の設定の作業リスト](#)」(P.2-11) のタスク 15. で、SSL 証明書をアップロードしてから設定のテストを実行します。先にテストを実行すると、セキュリティ関連のテストに失敗するためです。

ステップ 16 Connection を個々の Exchange サーバと通信するように設定した場合は、[ステップ 2 ～ステップ 15](#) を繰り返して「[Cisco Unity Connection 8.5 以降が通信する Exchange サーバを決定する](#)」(P.2-17) で説明した追加のユニファイドメッセージング サービスを作成します。

Exchange および Active Directory サーバに対する CA パブリック証明書の Cisco Unity Connection 8.5 以降のサーバへのアップロード

ユニファイドメッセージング サービスを作成した際、Exchange サーバまたは Active Directory ドメイン コントローラ (以下「DC」) の証明書を検証するオプションを選択した場合は、Exchange サーバおよび DC の証明書に署名をした証明機関 (以下「CA」) からパブリック証明書をアップロードする必要があります。証明書をアップロードしないと、Connection は Exchange サーバまたは DC と通信して Exchange サーバを検索できず、ユニファイドメッセージングの機能も動作しなくなります。次のタスクを実行します。

1. Exchange サーバの証明書を検証するオプションを選択したが、次のサーバの中に SSL 証明書がまだインストールされていないサーバがある場合：証明書を入手してインストールします。
 - Exchange 2010 クライアント アクセス サーバ。
 - Exchange 2007 クライアント アクセス サーバ (Connection からアクセスできるようにしたい Exchange 2007 メールボックスがある場合)。
 - Connection でアクセスできるようにするメールボックスがある Exchange 2003 サーバ (ある場合)。

また、Active Directory ドメイン コントローラの証明書を検証するオプションを選択しており、SSL 証明書がまだ DC にインストールされていない場合は、証明書を入手してインストールします。

2. [タスク 1](#) のリストに示されているサーバにインストールした SSL 証明書の発行に、外部の CA (ペリサインなど) を使用した場合、CA のパブリック証明書を .pem 形式で保持している場合：そのファイルを Connection サーバにアクセス可能なネットワーク上のロケーションに保存します。その後で、[タスク 6](#) に進みます。

3. Microsoft 証明書サービスまたは Active Directory 証明書サービスを使用して SSL 証明書を発行した場合、または外部 CA を使用してその CA のパブリック証明書 (.pem 形式) を持っていない場合: OpenSSL または、パブリック証明書を .pem 形式に変換できるその他のアプリケーションをダウンロードしてインストールします。これは、Connection が、他の形式のパブリック証明書をアップロードできないためです。
4. Microsoft 証明書サービスを使用して SSL 証明書を発行した場合: 「Microsoft 証明書サービスまたは Active Directory 証明書サービスのパブリック証明書をファイルに保存する方法」(P.2-37) を実行します。
5. Microsoft 証明書サービス、Active Directory 証明書サービス、または外部の CA を使用して、.pem 形式の証明書を保持していない場合: タスク 3. でダウンロードしたアプリケーションを使用してパブリック証明書を .pem 形式に変換し、そのファイルを Connection サーバにアクセス可能なネットワーク上の場所に保存します。
6. パブリック証明書を Connection サーバにアップロードします。「パブリック証明書を Connection 8.5 以降のサーバにアップロードする方法」(P.2-38) の手順を参照してください。

Microsoft 証明書サービスまたは Active Directory 証明書サービスのパブリック証明書をファイルに保存する方法

- ステップ 1** Microsoft 証明書サービスをインストールし、次に示すサーバの SSL 証明書を発行したサーバにログインします。
 - Exchange 2010 クライアント アクセス サーバ。
 - Exchange 2007 クライアント アクセス サーバ (Connection からアクセスできるようにしたい Exchange 2007 メールボックスがある場合)。
 - Connection でアクセスできるようにするメールボックスがある Exchange 2003 サーバ (ある場合)。
 - Connection サーバがアクセスする Active Directory ドメイン コントローラ。
- ステップ 2** Windows の [スタート (Start)] メニューで、[プログラム (Programs)] > [管理ツール (Administrative Tools)] > [証明機関 (Certification Authority)] を選択します。
- ステップ 3** 証明機関 MMC の左ペインでサーバ名を右クリックし、[プロパティ (Properties)] をクリックします。
- ステップ 4** [一般 (General)] タブの [<サーバ名> のプロパティ (<servername> Properties)] ダイアログボックスで、[証明書を表示する (View Certificate)] を選択します。
- ステップ 5** [証明書 (Certificate)] ダイアログボックスで、[詳細 (Details)] タブを選択します。
- ステップ 6** [詳細 (Details)] タブで [ファイルへコピー (Copy to File)] を選択します。
- ステップ 7** [証明書のエクスポート ウィザードの開始 (Welcome to the Certificate Export Wizard)] ページで、[次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 8** [エクスポート ファイルの形式 (Export File Format)] ページで [次へ (Next)] をクリックして、デフォルト値 [DER Encoded Binary X.509 (.CER)] を受け入れます。
- ステップ 9** [エクスポートするファイル (File to Export)] ページで、Connection サーバにアクセス可能なロケーション、およびファイル名を含めたパブリック証明書のフルパスを入力します。
- ステップ 10** [次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 11** [証明書のエクスポート ウィザードの完了 (Completing the Certificate Export Wizard)] ページで、[完了 (Finish)] を選択します。
- ステップ 12** [OK] を 3 回選択してメッセージ ボックスと 2 つのダイアログボックスを閉じます。
- ステップ 13** 証明機関 MMC を閉じます。

- ステップ 14** **ステップ 1** のリストに示されているサーバの SSL 証明書を、同じインストールの Microsoft 証明書サービスを使用して発行した場合は、この手順で終了です。この項のタスク リストに戻ります。
- ステップ 1** のリストに示されているサーバの SSL 証明書を、異なるインストールの Microsoft 証明書サービスのインストールを使用して発行した場合は、**ステップ 1** ～ **ステップ 13** を繰り返し、Microsoft 証明書サービスの各インスタンスに対してパブリック証明書を 1 つずつ取得します。終了したら、この項のタスク リストに戻ります。

パブリック証明書を Connection 8.5 以降のサーバにアップロードする方法

- ステップ 1** Connection サーバで Cisco Unified Operating System Administration にサインインします。
- ステップ 2** [セキュリティ (Security)] メニューで [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択します。
- ステップ 3** [証明書のアップロード (Upload Certificate)] を選択します。
- ステップ 4** [証明書の名前 (Certificate Name)] リストで、[tomcat-trust] を選択します。
- ステップ 5** 任意: [説明 (Description)] フィールドに説明を入力します (例: 証明機関の名前など)。
- ステップ 6** [参照 (Browse)] を選択します。
- ステップ 7** .pem 形式でパブリック証明書を保存した場所を参照し、変換した証明書のうち 1 つを選択します。
- ステップ 8** [ファイルのアップロード (Upload File)] を選択します。
- ステップ 9** **ステップ 3** ～ **ステップ 8** を繰り返します。ただし、[証明書の名前 (Certificate Name)] リストで [Connection-trust] を選択します。
- ステップ 10** 複数の証明機関から取得したパブリック証明書を保持している場合は、残りの証明書に対しても **ステップ 3** ～ **ステップ 9** を繰り返します。
-

Cisco Unity Connection 8.5 以降に対するユニファイドメッセージング サービスのテスト

1 つ以上のユニファイドメッセージング サービスをテストするには、次の手順を実行します。

Connection 8.5 に対するユニファイドメッセージング サービスをテストする方法

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ユニファイドメッセージング (Unified Messaging)] を展開し、[ユニファイドメッセージング サービス (Unified Messaging Services)] を選択します。
- ステップ 2** [ユニファイドメッセージング サービスの検索 (Search Unified Messaging Services)] ページでテストを実行するサービスを選択します。
- ステップ 3** [ユニファイドメッセージング サービスの編集 (Edit Unified Messaging Service)] ページで [テスト (Test)] を選択します。
- ステップ 4** テストの結果に設定上の問題が表示された場合は、問題を解決してからテストを繰り返します。
- ステップ 5** 複数のユニファイドメッセージング サービスが設定されている場合は、**ステップ 1** ～ **ステップ 4** を繰り返して残りのサービスのテストを実行します。
-

Cisco Unity Connection 8.5 以降のユーザを Exchange メールボックスにリンクするユニファイド メッセージング アカウントの作成

ここでは、次の項目について説明します。

- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降におけるユニファイド メッセージング アカウントとユーザ アカウントの関連性」(P.2-39)
- 「Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイド メッセージング アカウントの作成」(P.2-39)

Cisco Unity Connection 8.5 以降におけるユニファイド メッセージング アカウントとユーザ アカウントの関連性

ユニファイド メッセージング アカウントは、Connection ユーザをユニファイド メッセージング サービスに結びつけます。ユニファイド メッセージング アカウントは、オブジェクトをユーザ アカウントから分離します。

- ユーザ アカウントを作成する際、Connection はそのユーザのユニファイド メッセージング アカウントを自動的に作成しません。
- 1 人のユーザに対し複数のユニファイド メッセージング アカウントを作成できますが、1 人のユーザのユニファイド メッセージング アカウントは重複する機能を保持できません。たとえば、同じユーザに対して 2 つのユニファイド メッセージング アカウントを作成し、両方のアカウントで単一受信トレイを有効にできません。

1 人のユーザに対して複数のユニファイド メッセージング アカウントを作成することは、ユニファイド メッセージング機能を制御する 1 つの方法です。たとえば、すべてのユーザに単一受信トレイを利用できるようにし、Exchange メールに対するテキスト/スピーチ アクセスを利用できるのは一部のユーザのみにしたい場合は、2 つのユニファイド メッセージング サービスを作成します。つまり、1 つのサービスでは単一受信トレイをアクティブ化し、もう一方のサービスでは TTS をアクティブ化します。次に、すべてのユーザに対して、単一受信トレイへのアクセス権を持つユニファイド メッセージング アカウントを作成し、次に TTS を保持させたいユーザ向けのユニファイド メッセージング アカウントを別途作成します。

- ユニファイド メッセージング アカウントを追加する場合、関連するユーザ アカウントはユニファイド メッセージング アカウントと対で更新されます。ユーザ アカウントにユニファイド メッセージング アカウントの情報は含まれません。
- ユーザアカウントを削除すると、そのユーザのすべてのユニファイド メッセージング アカウントは削除されます。一方、ユニファイド メッセージング アカウントを削除しても、対応するユーザ アカウントは削除されません。ユーザ アカウントは、ユニファイド メッセージング アカウントへの参照を削除した場合にのみ更新されます。

Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイド メッセージング アカウントの作成

Connection ユーザに対し、Connection の管理を使用して 1 つ以上のユニファイド メッセージング アカウントを作成するには、次の手順を実行します。Bulk Administration Tool を使用して、多数のユニファイド メッセージング アカウントを作成することもできます。詳細については、『*User Moves*、

Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection』 (Release 8.x)

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_mac/guide/8xcucmacx.html)
の付録「Using the Cisco Unity Connection 8.x Bulk Administration Tool」を参照してください。



(注)

ユニファイドメッセージングアカウントは、それぞれユーザに関連付けられていますが、ユニファイドメッセージングアカウントは、Connection データベースにおける独立したオブジェクトです。ユニファイドメッセージングアカウントを削除しても、関連するユーザアカウントは削除されません。

Cisco Unity Connection 8.5 のユーザを Exchange メールボックスにリンクするユニファイドメッセージングアカウントを作成する方法

ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration で、[ユーザ (Users)] を展開し、[ユーザ (Users)] を選択します。

ステップ 2 [ユーザの検索 (Search Users)] ページで、ユーザのエイリアスを選択します。



(注)

ユーザエイリアスが検索結果テーブルに表示されない場合は、ページ上部の検索フィールドに適切なパラメータを設定し、[検索 (Search)] を選択します。

ステップ 3 [ユーザの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページの [編集 (Edit)] メニューで、[ユニファイドメッセージングアカウント (Unified Messaging Accounts)] を選択します。

ステップ 4 [ユニファイドメッセージングアカウント (Unified Messaging Accounts)] ページで、[新規追加 (Add New)] を選択します。

ステップ 5 [新規ユニファイドメッセージングアカウント (New Unified Messaging Account)] ページの [ユニファイドメッセージングサービス (Unified Messaging Service)] リストで、ユーザが使用するサービスの名前を選択します。サービスの名前は、「[Cisco Unity Connection 8.5 から Exchange にアクセスするためにユニファイドメッセージングサービスを作成する方法](#)」(P.2-33) の手順でサービスを作成した際に入力済みです。

表示専用の [サービスの種類 (Service Type)] フィールドに、「Exchange」と表示されているはずですが、ここに他の値が表示されている場合は、別のユニファイドメッセージングサービスを選択します。

ステップ 6 [アカウント情報 (Account Information)] セクションで、アクセスする Exchange メールボックスに該当するオプションを選択します。

- [この電子メールアドレスを使用する (Use This Email Address)] : 社内電子メールアドレスに関連付けられている Exchange メールボックスとは別のメールボックスを指定したい場合は、このオプションを使用して電子メールアドレスを入力します (Active Directory の第 1 SMTP アドレス)。
- [社内電子メールアドレスを使用する (Use Corporate Email Address)] : 社内電子メールアドレスを使用する場合は、このオプションを選択します。([社内電子メールアドレス (Corporate Email Address)] フィールドの値は [ユーザの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページで編集できます)。



(注)


ステップ 5 で選択したユニファイドメッセージングサービスが (自動的に Exchange サーバを検索するのではなく) Exchange サーバを指定している場合、およびユーザが Exchange 2003 のメールにアクセスするために TTS を使用している場合は、[アカウント情報 (Account Information)] セクション (Exchange 2003 TTS のみに使用) でオプションを選択し、該当する場合は、[ユーザ ID (User ID)] フィールドの値を入力する必要があります。

- ステップ 7** [アカウント情報 (Account Information)] セクション (Exchange 2003 TTS のみに使用) は、次の 2 つの条件に当てはまる場合にのみ適用されます。
- ユーザが Exchange 2003 のメールにアクセスする TTS を使用している。
 - **ステップ 5** で選択したユニファイド メッセージング サービスが (自動的に Exchange サーバを検索するのではなく) Exchange サーバを指定している。
- 該当するオプションを選択します。
- [Connection エイリアスを使用 (Use Connection Alias)] : このオプションは、ユーザの Active Directory ドメイン エイリアスが、ユーザ エイリアスと同じ場合に役立ちます。Connection Connection は、Connection ユーザ エイリアスを使用して Exchange にそのユーザとしてログインします。
 - [次のユーザ ID を使用 (Use User ID Provided Below)] : そのユーザの Active Directory ドメイン エイリアスを入力します。このオプションはユーザ ID の設定が Connection ユーザ エイリアスと異なる場合に便利です。Connection は、このフィールドの設定を使用して Exchange にそのユーザとしてログインします。
- ステップ 8** [この電子メール アドレスを使用する (Use This Email Address)] オプションに値を入力するか、社内電子メール アドレスを使用するよう選択して、**ステップ 6** で指定したメール アドレスと一致する SMTP プロキシ アドレスをユーザが持っていることを確認します。
- a. [編集 (Edit)] メニューで、[SMTP プロキシ アドレス (SMTP Proxy Address)] を選択します。
 - b. [SMTP プロキシ アドレス (SMTP Proxy Address)] ページに、**ステップ 6** で指定したメール アドレスが表示されている場合は、**ステップ 9** にスキップします。インストールしている場合は、**ステップ 8c** に進んでください。
 - c. [新規追加 (Add New)] を選択します。
 - d. **ステップ 6** で指定したメール アドレスを追加します。
 - e. [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 9** [サービス機能 (Service Capabilities)] セクションに、**ステップ 5** で選択したユニファイド メッセージング サービスで有効にしたオプションが表示されます。このユーザの任意の機能を無効にする場合は、対応するチェックボックスをオフにします。
- 1 人のユーザに複数のユニファイド メッセージング サービスを追加できますが、同じユーザに対する複数のユニファイド メッセージング サービスにおいて同じサービス機能を有効にできません。これは、Exchange 予定表および MeetingPlace にも適用されます。つまり、1 人のユーザが Exchange 予定表、および MeetingPlace のスケジューリングと参加にアクセスできるようには設定できません。
- 後で、ユニファイド メッセージングの単一受信トレイを無効にする場合の動作の同期については、「**単一受信トレイを無効にしてから再度有効にした場合の、Connection メールボックスと Exchange メールボックスの同期への影響**」(P.2-10) を参照してください。
- ステップ 10** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 11** ユーザの設定をチェックするには、[テスト (Test)] を選択します。[タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウにテスト結果が表示されます。
- テストの一部で失敗した場合は、Exchange、Active Directory、Cisco Unity Connection、および Connection ユーザの設定を確認してください。
- ステップ 12** 残りのユーザに対して、**ステップ 2** ~ **ステップ 11** を繰り返します。

Cisco Unity Connection 8.5 以降のユニファイド メッセージング アカウントのテスト

「Cisco Unity Connection 8.5 以降のユーザを Exchange メールボックスにリンクするユニファイド メッセージング アカウントの作成」(P.2-39) で作成した 1 つ以上のユニファイド メッセージング アカウントをテストするには、次の手順を実行します。

Exchange に対するユーザ アクセスをテストする方法 (個別の Cisco Unity Connection 8.5 ユーザ向け)

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ユーザ (Users)] を展開し、[ユーザ (Users)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザの検索 (Search Users)] ページで Exchange の 1 つ以上のユニファイド メッセージング機能に設定されているユーザのエイリアスを選択します。
-  **(注)** ユーザ エイリアスが検索結果テーブルに表示されない場合は、ページ上部の検索フィールドに適切なパラメータを設定し、[検索 (Search)] を選択します。
-
- ステップ 3** [ユーザの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページの [編集 (Edit)] メニューで、[ユニファイド メッセージング アカウント (Unified Messaging Accounts)] を選択します。
- ステップ 4** Exchange のユニファイド メッセージング アカウントを選択します。
- ステップ 5** [ユニファイド メッセージング アカウントの編集 (Edit Unified Messaging Account)] ページで [テスト (Test)] を選択します。
- ステップ 6** 結果を確認し、問題があれば解決して、問題がすべて解決するまでテストを繰り返します。
-

Cisco Unity Connection 8.5 以降に対するユニファイド メッセージング アカウントにおける設定の概要の表示

Connection サーバにおけるすべてのユニファイド メッセージング アカウントの設定の概要を表示できます。これには次の内容が含まれます。

- ユニファイド メッセージングの正常な機能を妨げる Connection との整合性の問題を示す、各ユニファイド メッセージング アカウントにおける Connection の設定の現状。ユニファイド メッセージング アカウントのステータス アイコンを選択すると、[ユニファイド メッセージング アカウント (Unified Messaging Account)] ページが表示され、問題や起こりうる問題がある場合は、そのページのステータスのエリアに表示されます。

[ユニファイド メッセージング アカウント (Unified Messaging Account)] ページの [接続性のテスト (Test Connectivity)] ボタンを使用して、ユニファイド メッセージング アカウントに他のサーバとの接続があるかどうかを確認することもできます。

- アカウントに関連するユーザのエイリアス。ユニファイド メッセージング アカウントのエイリアスを選択すると [ユニファイド メッセージング アカウントの編集 (Edit Unified Messaging Account)] ページが表示され、問題や起こりうる問題がある場合は、そのページのステータスのエリアに表示されます。

- ユニファイド メッセージング アカウントに関連付けられているユーザの表示名。
- ユニファイド メッセージング アカウントに関連付けられているユニファイド メッセージング サービスの名前。サービスの名前を選択すると、サービスの設定を示す [ユニファイド メッセージング サービス (Unified Messaging Services)] ページが表示されます。
- 各ユニファイド メッセージング アカウントの現在のユニファイド メッセージングの設定。

Cisco Unity Connection 8.5 以降に対するユニファイド メッセージング アカウントの設定の概要を表示する方法

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ユニファイド メッセージング (Unified Messaging)] を展開し、[ユニファイド メッセージング アカウントのステータス (Unified Messaging Account Status)] を選択します。
- ステップ 2** 列の値を昇順でソートするには、列の見出しを選択します。降順でソートするには、再度見出しを選択します。
- ステップ 3** アカウントの [ユニファイド メッセージング アカウント (Unified Messaging Accounts)] ページを表示するには、アイコンを選択するか、該当する行の [エイリアス (Alias)] 列の値を選択します。
- ステップ 4** アカウントの [ユニファイド メッセージング サービス (Unified Messaging Services)] ページを表示するには、該当する行の [UM サービス (UM Services)] 列の値をクリックします。
-

Exchange および Cisco Unity Connection 8.5 以降を備えたユニファイド メッセージングを含むシステム構成のテスト

Connection システムのテスト (ユニファイド メッセージング設定のテストなど) を実行できます。テストでは、構成の問題があればそれを示すサマリー データが作成されます。たとえば、構成の問題を持つ指定したユニファイド メッセージング サービスに割り当てられているアカウントの数などです。

Cisco Unity Connection 8.5 のユニファイド メッセージングの設定を含めたシステム設定を確認する方法

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ツール (Tools)] を展開し、[タスク管理 (Task Management)] を選択します。
- ステップ 2** [タスクの定義 (Task Definitions)] ページで、[システム設定の確認 (Check System Configuration)] を選択します。
- ステップ 3** [今すぐ起動 (Run Now)] を選択します。
- ステップ 4** [更新 (Refresh)] を選択して、最新の結果へのリンクを表示します。
- ステップ 5** 結果を確認し、問題があれば解決して、問題がすべて解決するまで [システム設定の確認 (Check System Configuration)] のタスクを繰り返します。
-

Cisco Unity Connection 8.5 以降における Exchange 予定表へのアクセスのテスト

Connection の Exchange 予定表へのアクセスを設定した場合は、次の手順を実行します。

Cisco Unity Connection 8.5 における Exchange 予定表へのアクセスをテストする方法

- ステップ 1** Outlook にログインします。
 - ステップ 2** [移動 (Go)] メニューで [予定表 (Calendar)] を選択します。
 - ステップ 3** [ファイル (File)] メニューで、[新規作成 (New)] > [会議出席依頼 (Meeting Request)] を選択します。
 - ステップ 4** 必須フィールドに値を入力し、現在時刻の新しい会議をスケジュール設定し、Cisco Unity Connection にアカウントがあるユーザを招待します。
 - ステップ 5** [送信 (Send)] を選択します。
 - ステップ 6** [ステップ 4](#) で Outlook 会議に招待したユーザの Cisco Unity Connection メールボックスにログインします。
 - ステップ 7** ユーザ アカウントが音声アクセスに設定されている場合は、「Play Meetings」と発音します。
ユーザ アカウントが音声アクセスに設定されていない場合は、6 を押し、プロンプトに従って会議を一覧表示します。
Connection から、Exchange 会議に関する情報が再生されます。
-